

静岡英和学院大学

# キリスト教研究年報

第六号

キリスト教研究年報  
二〇一八年三月

2018年3月

静岡英和学院大学 キリスト教研究会

静岡英和学院大学  
キリスト教研究会

# キリスト教研究年報 第六号

## 特集：キリスト教と「One for all, All for one」

### 目次

---

第六号発行によせて……………	静岡英和学院大学学長 柴田 敏	
南島原市における潜伏キリシタン関連遺産の観光客受入の取組み ……………	人間社会学科 崔 瑛	1
宗教改革期の女性統治者ブラウンシュヴァイクのエリーザベトの信仰観 —One for all,All for one ……………	人間社会学科 伊勢田奈緒	9
チャペル（Chapel）の意義を求めて —韓国におけるキリスト教系大学のチャペルの動向— ……………	人間社会学科 金 承子	19
礼拝を通しての学び —一年生全員からのアンケートを通して—（研究ノート）(2)……………	人間社会学科 伊勢田奈緒、崔瑛、金承子 コミュニティ福祉学科 中原陽三、山田美代子	25
「静岡英和学院大学におけるキリスト教と One for all,All for one」座談会 —先輩から後輩へ、後輩から先輩へ……………	出席者 4年生 大石 竜希、大内 海愛、大竹 良一、坂本 昇平、 寺西 穂華、深澤 凜、山田亜矢子 3年生 山崎 千壽 2年生 鈴木 凌 1年生 SAMA SHRESTHA SURAJ、POKHREL DINESH 聞き手 伊勢田奈緒	55
2017年度のチャペルとキリスト教行事の報告 ……………		57
2016年度職員研修会におけるレジュメ ……………	青山学院大学・教授 伊藤 悟	58
執筆要綱……………		60
編集後記……………		61



## 第6号発行によせて

学 長 柴 田 敏

この度発行される『キリスト教年報』第6号のテーマは、「キリスト教と One for all, All for one」だということです。

この「One for all, All for one」について、簡単にネットで検索するといくつかの情報が出てきました。

その歴史上もっとも古い記録は、「Unus pro omnibus, omnes pro uno」というラテン語で、1618年、「プラハ窓外投擲事件」の起きた会合において、プロテスタントの指導者が読み上げたレターの中にあるものなのだそうです。このあたりは伊勢田先生のご専門ですから、この年報の中でも、何かご説明いただいているのではないかと思います。

フランス語の「Un pour tous, tous pour un」は、アレクサンドル・デュマの『三銃士』に出て来る銃士たちのモットーになっているし、英語の「One for all, All for one」は、ラグビー・フットボールの競技精神として（少なくとも日本では）有名である、というようなこともありました。

もともと、「一人は皆のために、皆は一人のために」という意味ですが、ラグビーについては、「一人は皆のために、皆は一つのことのために」と解して、「一つのこと」とは、トライであり、あるいは勝利であると説明することもあるようです。

キリスト教と「One for all, All for one」ということでいえば、「一人は皆のために、皆は一人のために」でもよいですし、「一人は皆のために、皆は主イエスのために」と解してもよいのかもしれない。

静岡英和学院大学、静岡英和学院大学短期大学部が、主の御用のために日々用いられていることに、深く感謝いたします。

そして、これまで9年間宗教主任を務めていただいた伊勢田奈緒先生の上に、主の祝福が豊かにありますように、お祈りいたします。



# 南島原市における潜伏キリシタン関連遺産の観光客受入の取組み

崔 瑛

## 1. はじめに

2018年6月24日から開催される第42回世界遺産委員会における世界遺産登録を目指す長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産は、禁教時代の中で信仰を守り続けた潜伏キリシタン<sup>1</sup>の生き様の伝統を象徴する12の構成資産からなる遺産群である。1550年F.ザビエルが平戸で布教をはじめて以来、長崎地方におけるキリスト教は、伝来・繁栄・弾圧・潜伏・復活という歴史を辿る。その歴史のなかでも、長崎県南島原市の「原城跡」は、「島原・天草一揆」という禁教が進む過程での国家的弾圧を象徴する出来事の舞台として、世界遺産のストーリーの始発点となる構成上の重要な位置を占めており、潜伏キリシタン集落および集落内に立つ教会建築が中心となる他地域の構成資産とは異なる面がある。

今までの長崎と天草のキリスト教と潜伏キリシタン関連遺産に関する研究は、キリシタンの歴史と遺産に関する調査研究<sup>1)~2)</sup>、長崎の教会建築の特徴と鉄川与介のような教会建築家に着目した研究<sup>3)</sup>、世界遺産登録推進の取組み<sup>4)</sup>と宗教的資源の観光商品化<sup>5)~7)</sup>に注目したものが多かった。特に、観光施設ではない教会の維持・管理に問題意識を持ったものが多い。中には、潜伏キリシタン集落の歴史と景観<sup>8)</sup>に着目した研究もあるが、世界遺産登録後の観光受入体制の整備に関するものは比較的少なく、特に、原城跡を保有する南島原市の現状に着目した研究はあまり見当たらない。

本稿では、南島原市における「原城跡」を中心とした地域内の観光客受け入れ体制の整

備と観光商品化に着目し、2018年1月18日に実施した南島原市世界遺産登録推進課と南島原ひまわり観光協会の担当者へのヒアリング結果をもとに、世界遺産登録以降を見据えた地域側の準備状況の現状を把握した。

## 2. 対象地概要

### (1) 日野江城跡と原城跡

#### － 1612年の島原・天草一揆の場所

南島原市内の日野江城跡と原城跡は共に国指定史跡であり、3kmの距離圏内にある。当初、世界遺産構成資産の一つであった日野江城跡は、領主であった有馬晴信の居城であり、当時の繁栄を物語る出土品、五輪塔を踏石にした階段遺構が残っている。当時の日野江城は宣教の拠点であった。ここを通してキリスト教を保護した歴史、南方地域との貿易、中央政権との関係等が伺える。現在、日野江城跡は、禁教時代との直接的関連性を証明しにくい点で、世界遺産の構成資産リストから除外されたが構成資産である原城跡の関連遺産という位置づけとなっている。

海岸に突き出した丘に築かれた原城は、キリシタンへの迫害を象徴する出来事「島原・天草一揆」の舞台になった場所である。有馬晴信の没落と相まって幕府によるキリシタンへの弾圧が始まり、有馬家に代わり統治者となった松倉重政による多大な課税が領民への負担となった。1637年年貢を納めきれなかった口之津の庄屋の妊婦が殺されたことをきっかけに、島原半島と天草の領民が蜂起し、次第に本格的に武装化し、組織的な戦いに発展したのが島原・天草一揆である。当時一揆軍が籠城したのが原城であり、幕府軍の総攻撃によって鎮圧され、1638年4月に陥落された。この事件によって幕府はキリシタンの脅威を改めて認識するようになり、キリスト教への

<sup>1</sup> 潜伏キリシタンとは、キリスト教が禁じられていた17～19世紀の日本において、ひそかにキリスト教由来の信仰を続けていた人々のことをいう。

禁教令が定められ鎖国体制が確立された。

約 37,000 人の領民が命を落とした島原半島の南部では、幕府による強制移民が進められ、小豆島等の地域からの移民によって新たな村づくりが行われた。徹底的に破壊された原城は跡地として残っており、人骨、十字架、メダイ等が出土している。現在も、発掘調査が進行中で、国指定史跡となっている。

## (2) 南島原市の現状<sup>2</sup>

長崎県南島原市は 2006 年 3 月に旧南高来郡深江町、布津町、有家町、西有家町、北有馬町、南有馬町、口之津町、加津佐町の 8 町が合併し誕生した。長崎県南部島原半島の南東部に位置し、有明海を挟んで熊本県の天草市に面する人口約 4 万 9 千人の都市である。島原半島の奥に位置するためアクセスが不便であり、市内での公共交通手段を使った移動も厳しい。主な産業は、農林水産業等の 1 次産業、島原手延そうめん等の製麺業であり、1・2 次産業においては、高齢化や後継者不足等で生産者が減少している。地域経済を支える民間企業が比較的少なく、若い年齢の人口層が減少することによる高齢化率の上昇が社会問題化している。一方、観光面では世界文化遺産の構成資産と位置づけられる「原城跡」、島原半島世界ジオパーク等の資源があり、観光振興に向けた取り組みへの期待が大きく、世界遺産登録が実現すると観光客の増加

表 1 南島原市の観光客数

	観光客数(千人)	日野江&原城(千人)
2006 年	1447	111
2007 年	1433	116
2008 年	1444	121
2009 年	1408	121
2010 年	1418	121
2011 年	1350	121
2012 年	1442	121
2013 年	1738	133

出典：杉本土郎「世界遺産登録を控えた地元における観光振興の取り組み」  
(ながさき経済 2015 年 6 月号 p.11)

が見込める。しかし、宿泊等の観光産業を支える基盤施設が不足しており、雲仙などの周辺地域に移動して宿泊をする観光客の割合が高い。宿泊に伴う経済効果は限定的な状況である。

表 1 に示す過去の南島原市の観光客推移をみると、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として日野江城跡と原城跡の 2 つの構成資産の世界遺産登録が進められ、注目されていた 2013 年には観光客が増えている。当時既に世界遺産登録の推進効果が表れたものとみられる。南島原市の現状を示す各種データでは課題となる点が散見されるが、市内の組織・団体（市役所、商工会、観光協会等）による新しいビジネスチャンス創出への取り組みが進行中である。世界遺産登録を観光促進による地域経済活性化に結びつけるための仕組みを確立することが地域側の課題となっている。

## 3. 南島原ひまわり観光協会の取り組み

南島原ひまわり観光協会の業務の一つに、南島原ガイドの会「有馬の郷」の運営・管理があり、観光ガイドの受付窓口を担っている。市からの業務委託として、世界遺産関連の資料館となる有馬キリシタン遺産記念館の運営管理を行っており、その他に定期的に行うイベントや物産展開催にも関わっている。一般社団法人の組織で職員は 15 名であり、有馬キリシタン遺産記念館の案内業務係が 2 名、道の駅みずなし本陣情報提供施設に 2 名の担当がいる。県や市からの補助金で人件費の一部を確保している。最近では、旅行業登録によって原城跡のガイド・民泊付観光商品の造成を始めており、そのほかにもガイドを活用した新規事業の開拓を模索している。現在は農林漁業体験民泊関連事業が収入の大きな柱となっている。

<sup>2</sup> 平成 27 年 4 月 1 日付「南島原市産業振興促進計画」の内容の一部を抜粋してまとめた。

## (1) 南島原ガイドの会「有馬の郷」の運営・管理

2018年の世界遺産登録に向け、各町で活動をしていた5ガイド団体を合併し組織を一元化したのが南島原ガイドの会「有馬の郷」である。予約制による有料ガイドサービスの提供、市内小学生を対象とした「ふるさと発見ツアー」の実施、修学旅行生へのガイド対応、商工会の市内会員へ向けた有馬キリシタン遺産記念館・原城跡のガイド対応が主なガイドサービスである。原城跡に特化したものとしては、2017年10月から2018年3月の休日に、原城跡の主要スポットに定点ガイド<sup>3</sup>4人を配置し、来訪者への無料解説サービスを提供している。定点ガイドサービスは世界遺産登録以降も続ける予定で、観光客へのアンケート調査を実施し来訪者動向把握にも活用している。

## (2) 原城跡の定点ガイドによる来訪者調査の集計結果<sup>4</sup>

2017年10月1日から12月まで、原城跡の定点ガイドによって170名の来訪者を対象に調査を実施し、来訪者の特徴とガイドサービスへのニーズを把握している。ここでは、南島原ひまわり観光協会から提供された来訪者アンケート資料を、項目別にまとめて考察する。

### 1) 原城跡来訪者の特徴

年齢層（表2）では、60代以上が4割以上となっており、比較的若い年齢層が少ないことが分かる。旅行形態（表3）をみると、家族旅行/知人または友人との同行で訪れた割合が高いが一人旅も一定割合を占めている。全体の70%以上（104名/148名）が長崎県外から来訪しており、福岡県、熊本県等の九州圏からの来訪者が多く、次いで関西や関東からの来訪者もみられる。韓国、中国等の海

<sup>3</sup> 定点ガイドとは、決まった勤務時間の間、主要なスポットに待機して訪れてくる観光客に案内を行うガイドのことである。

<sup>4</sup> 南島原ひまわり観光協会が実施したアンケート結果の提供資料（2017年12月時点の集計表）をもとに作成した。

外からの観光客、巡礼客が多いが、インバウンド観光客の動向把握は現時点では行っていない。

表2 来訪者の年齢層

年代区分	人数	割合 (%)
20代	11	6.5
30代	19	11.2
40代	27	15.9
50代	40	23.5
60代	47	27.6
70代以上	26	15.3

表3 来訪者の旅行形態

形態区分	人数	割合 (%)
一人旅	28	18.9
家族旅行	80	54.1
知人又は友人	37	25.0
団体旅行	3	2.0

原城跡までの交通手段としては、自家用車（128名）、レンタカー（19名）がほとんどであり、公共交通手段を利用する人は稀である。原城跡を訪れたきっかけとして、知人からの紹介（32名）、テレビ（26名）、チラシ（20名）、新聞や雑誌（19名）をあげている。

### 2) 原城跡来訪者のニーズ

来訪者ニーズは、ガイド案内サービスと物販へのニーズ、1時間の原城跡案内サービスのガイド料金への意見、定点ガイドサービスへの満足度の4点を基準に把握している。定点ガイドサービスに対する満足度は、ほとんどの回答者で高い評価となっており、さらに「20分程のガイド案内があれば聞きたい」という人は約7割（91名/129名）であった。ガイドによる案内サービスが必要とされている。

定点ガイドに関する意見として33件の自由記述データが得られた。ガイドサービスによって理解が高まったという肯定的な意見が多く、ガイドの説明を聞いて歴史に対する理解が深まったことが評価されている。一方で、休憩ができるスペース、当時の様子を理解できる工夫に対する要望もあった。具体的な意見のいくつかを表4にまとめた。

表4 来訪者の意見記述の一部

サービスへの満足に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い時間だったが分かりやすかった</li> <li>・詳しく親切な案内で勉強になった</li> <li>・歴史を学ぶことができた</li> <li>・幕府との関係、戦いの悲惨さを改めて理解できた</li> <li>・よく設備されていて、トイレもきれい</li> </ul>
改善への要望に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスクリーム、お茶屋さんがあれば尚良い、イベントを年4回程開催されれば良い</li> <li>・当時の城の様子はどうだったか（建物）があると子どもも分かりやすい</li> <li>・城全景の表示が必要である</li> <li>・話が3回ほどループしていつ移動したらいいか分からなかった、次の場所への移動を促してほしい</li> <li>・看板を訂正すべきではないか、ホームページを充実させる必要がある</li> <li>・原城のチラシ、簡単なパンフレットがあったらいい</li> <li>・多くの資料の展示してほしい</li> </ul>

飲料の販売は66%の人(88名/129名)が必要と考えており、食べ物を含む物販へのニーズ、原城跡の案内冊子への要望も把握できた。1時間のガイド料金としては500円(91名)から1000円(34名)程度を適正だと考えている人が多く、有料ガイドサービスへの需要が存在するといえる。現在、原城跡には販売施設がなく、来訪者の消費を促す拠点の設置を検討する必要がある。その他、ホームページを含む情報メディアでの情報発信の充実を望む声もあることが把握できた。

### (3) 観光ガイド組織運営における課題

現在、観光ガイド団体に登録した会員数は65名であるが、実際活動しているのは約20名程である。各人が本業を抱えているため、活躍できる人材不足が課題となっている。団体は観光ガイドになりたい希望があれば自由に入れるシステムで運営されており、会員になるための制限はなく、敷居を低くし会員増加を促している。会員はガイド研修会に参加できる。研修会は1ヶ月に1回のペースで開催されるガイド同士の学び合いの場となっており、主に原城跡の歴史や近隣のキリシタン関連遺跡に関する学習を行う。現在は、統一した教育教材が十分ではなく、ガイドとして活動を始めるための認定制度がないため、ガイド活動を始める時期などは、各個人の自律

的判断に委ねられる。ガイドの人数を拡大し、サービスの質を維持するための制度整備について検討する余地はある。ガイドの統一組織である「有馬の郷」におけるガイドの力量、スキルアップ、広域案内ができるガイド育成の必要性については、杉本<sup>5</sup>によっても指摘されている。

現在、ガイド組織内では、一般観光客に対して、より地域の魅力をアピールできるように、ガイドの説明内容の中に、原城跡関連内容に加え周辺の観光スポットや地域紹介のような分かりやすい内容を盛り込むことが検討されている。来訪者の地域への理解を促す工夫をすることが課題として掲げられている。

### (4) 旅行商品の造成

最近、南島原ひまわり観光協会は第3種旅行業者となり、表5に示す旅行商品の造成を始めている。販売実績の蓄積はまだないが、商品構成は、ガイドサービスと有馬キリシタン遺産記念館の入館料を中心に、昼食あるいは宿泊がセットになったシンプルなものである。

観光客の滞在時間を延ばし消費額を増やす

<sup>5</sup> ながさき経済2015年6月号の「世界遺産登録を抱える地元における観光振興の取組み—南島原市—」p.15に掲載された「ガイドの課題」の記述内容を参考にした。

ためには、市内宿泊を促す必要があるが、現在は観光スポットに立ち寄ってから、別の地域に移動し宿泊する観光客数が多いという。この状況を改善するためには、個人観光客とツアー客（旅行会社）の両方にとって魅力ある宿泊の選択肢を増やし、旅行会社のツアーに組み込まれるような提案をすること、立ち寄るスポットの数を増やし周遊コースを紹介すること等が方法として考えられる。

現在は、市内の宿泊施設の受容に限りがあるため、農林漁業体験民泊を旅行商品造成の主な要素としている。ガイドと民泊を兼業するケースも数軒ある。地域特有の体験メニューの提供が可能な宿泊商品として、アピールポイントを磨き上げ修学旅行以外の一

般観光客の利用を増やすことも必要である。

また、旅行商品にスポット間の交通手段が含まれないが、南島原市の観光における最大の課題の一つは交通利便性の改善といえる。現在、交通手段をツアー商品に組み入れない理由として、南島原市と原城跡に訪れる観光客の多くが自家用車等を利用していることが挙げられるが、交通便を用意しなくても市内を周遊できる、交通手段の選択が可能なプランづくりやサイクリングなどの多様な交通手段の提案を行うことで、自動車利用ができない来訪者の利便性の向上を図り、市内での滞在時間を延ばしつつ、新しい客層を拡大することも期待できる。

表5 旅行商品の内容

日帰りプラン	原城跡観光ガイド+昼食・温泉 (有馬キリシタン遺産記念館と原城跡) 利用料金：一人 4,500 円～	10 時～13 時 含まれるもの：ガイド料，入館料，昼食代 (昼食場所を 3 つの中から選択でき，場所によって入浴の選択可)
原城籠城 (一泊)	温泉旅館+原城跡館観光ガイド (宿泊先:真砂/城/しらはま) 利用料金：一人 11,000 円～	1 日目：10 時～ 有馬キリシタン遺産記念館，原城跡，市内宿泊施設 2 日目：8 時 30 分頃宿泊施設出発 含まれるもの：ガイド料，入館料，夕朝食代，宿泊代 (宿泊施設を 3 つの中から選択)
籠城民泊 (一泊)	農林漁業体験民泊+原城跡観光ガイド 田舎料理でガイドと夜なべ談義 利用料金：一人 10,000 円～	1 日目：14 時～有馬キリシタン遺産記念館，原城跡，民泊家庭での体験民泊 2 日目：8 時 30 分頃民泊家庭出発 含まれるもの：ガイド料，入館料，夕朝食代，体験民泊代 (民泊家庭は観光協会で指定)

(その他関連史跡の紹介のオプション有)

#### (5) 農林漁業体験民泊受入実績

南島原市における農林漁業体験型民泊事業は 2009 年度から始まった。農林漁業農家が受入家庭で、主に生産業を活かした食事と体験メニューを提供している。2009 年度は 6 軒の受入先で始まったが、2016 年度の時点からは 172 軒に増えている。表 6 に示すよう

に、宿泊客数は 2016 年度に熊本地震の影響で激減したが、2017 年度からは回復傾向にあり、観光協会によると、農林漁業民泊のみによる売り上げ実績は 2014 年度 85,208,500 円、2015 年度 106,679,142 円で、民泊関連事業は観光協会の自主財源の核となる重要なものとなっている。

表 6 農林漁業体験民泊受入実績 (2017 年 12 月時点)

	受入 軒数	学校数		計	延べ宿泊者数							計
		修学 旅行	市内 小学生		修学 旅行	小学生	東北支援		一般	海外		
							小学	中学			台湾	
2014 年度	153	42	7	49	9,841	46	40	20	135	935	746	11,017
2015 年度	164	51	8	59	10,679	51	46	14	195	1,403	969	12,388
2016 年度	172	27	0	27	6,293	38	0	0	215	417	139	6,963
2017 年度	185	44	0	44	8,700	0	0	0	300	600	—	9,600
	172	43	0	43	8,093	0	0	0	106	899	242	9,098

(注：東北支援は、「心のふるさと交流事業」における数字である)

渡部<sup>6</sup>は、各民泊家庭が初対面の生徒を温かく受け入れることを、南島原市における民泊利用の増加と持続の要因の一つとみていた。南島原市では受入家庭を確保するために、担当部署の職員が地域の会合で説明を行うことや、農林漁家に直接向いて個別に説明をする取組みをしているという。また、受入家庭には、住宅改修時に施設改修補助金の助成があり、安全衛生に関する講習会やインストラクター研修会等の参加が義務づけられる。

#### 4. 南島原市の取組み

##### 1) 世界遺産登録に向けた原城跡の受入対策

2015 年の時点では、市内の交通便による原城跡までのアクセスの面、大型駐車場の整備と周遊バス運行、トイレ等の整備の必要性について指摘する声があった<sup>7</sup>。現在、来訪者向けの駐車場が 2 カ所（宿泊施設真砂の駐車場（自家用車）、大型車両用駐車場）整備されており、世界遺産登録が確定した後は、現在運営中の構成資産内の駐車場を利用中止とし、2 カ所の駐車場から原城跡までの送迎バス（現時点で 1 台の運営を想定）を運行する予定である。現在は、原城跡の来訪者数のカウントが正確に行われていないが、今後、送迎バスの乗り降り人数を基準に入り込み実

<sup>6</sup> 調査研究情報誌 ECPR の 2015 年 NO.1 の「民泊を核とした修学旅行誘致—南島原市農林漁業体験型民泊事業の事例から—」p.59 に掲載された関連内容を参考にした。

<sup>7</sup> 前掲の「ながさき経済 2015 年 6 月号」の記事 p.16 に、駐車場とトイレの整備の課題が指摘されている。

数を把握する見込みである。

原城跡の本丸には、総合案内業務を担う職員を配置する予定であり、案内とガイドの拠点として敷地内にプレハブの施設を設置する計画である。世界遺産に特化した来訪者ガイド施設としては、現存の有馬キリシタン遺産記念館を活用する予定で、現在と同様に、原城跡関連の歴史を事前学習できる資料の展示施設としての役割を担う予定である。

##### 2) 構成資産維持管理の資金調達と観光客の消費拡大

構成資産の維持・管理、受入体制の整備には、多大な資金が必要な状況であるが、現在の原城跡は、遺産と周辺道路の境界線が明確に区切られず出入口が明確ではないため、入場料の徴収は行われていない。収益を得るための代案として、原城跡関連資料の販売、手ぬぐい等の記念物の生産・販売が進められている。観光客の消費拡大に向けては、世界遺産関連の物販施設の設置構想が立てられ 2018 年度からの着手に向けて、準備が行われている。

市民側では、2000 年度に 12 の市民団体からスタートした世界遺産市民協働会議が立ち上げられ、宿泊施設、道の駅、お菓子製造業組合、農業関係の団体が入り、32 団体の 60 人程度の規模で、年に数回のミーティングを行っている。「ととのえる」、「もてなす」、「伝える」、「活かす」の 4 つの部会でそれぞれがテーマを決めて、来訪者の受け入れ対策や情報発信、世界遺産の保護などに関する事項に

ついて検討している世界遺産登録以降に活動がより本格化すると考えられる。

### 3) 利用者の理解を促す仕組み

原城跡の場合、埋蔵文化財の性格がつよい  
ため、市ではスマートフォンでダウンロード  
できる有馬歴史ガイドのアプリケーション開  
発や、タブレット端末のCG映像で昔の原城  
の光景をみることのできるVRシステムの開  
発を進めている。VRについては、貸し出し  
できる端末を20台用意することとしている。  
IT技術を活用し、利用者の理解を促すこと  
に力を入れている。

## 5. おわりに

本稿では、南島原市役所と南島原ひまわり  
観光協会等へのヒアリングにより、世界遺産  
登録に向けた観光受入体制の状況と課題を把  
握した。今後は、観光客や一般市民への調査  
を行い、幅広く情報を収集することで、原城  
跡を核とする南島原市の観光戦略の策定と観  
光客の消費拡大策の検討を行っていきたい。

小室<sup>8</sup>は、世界遺産を活用した観光振興に  
おける課題として、長期・安定的な観光需要  
の確保とともに、観光需要の抑制、遺産に過  
度な負担がかからない観光形態への誘導、遺  
産保全財源の観光客からの徴収、マナーの向  
上等を挙げている。この内容を、南島原市の  
原城跡の現状に当てはめてみると、教会や集  
落を抱える他の構成資産に比べ、遺産にかか  
る負荷に関する課題は少なく、住民の生活拠  
点とも距離が離れていることから、観光客の  
マナー問題は浮上していない。市では、技術  
を活用した観光客の理解を促すシステム開発  
を進めており、新たなガイドサービスの試験  
運営も実施され、基本的な受入体制は整って  
いる。

一方で、遺産保全と受入体制の整備に関わ  
る財源確保や、地域経済への恩恵を増やすた  
めの、観光客の滞在時間の増加と消費促進に

向けた取組みにおいては、解決すべき課題  
がある。これから市民や学識経験者、まちづ  
くりや地域振興推進において実績のある専門  
家を交えた議論と検討を重ね、世界遺産登録  
を地域活性化のきっかけにつなげる方策を  
練って、仕組みを定着させる必要がある。

謝辞：本研究を遂行するに当たり、南島原市  
企画振興部世界遺産推進課の岩永正貴様、一  
般社団法人南島原ひまわり観光協会マネ  
ジャーの松尾星弥様から、ご丁寧な現地案内  
や説明を受けており、資料提供、ヒアリング  
へのご協力を頂きました。この場を借りて、  
厚く御礼を申し上げます。

### <参考文献>

- 1) 財団法人観光資源保護財団(1974)『五  
島の初期教会堂と堂崎天主堂』
- 2) 長崎県教育委員会(1980)『長崎県文化財  
調査報告書第48集長崎県歴史資料調査キ  
リシタン関係資料』
- 3) 木方十根, 山田由香里(2016)『図説長崎  
の教会堂－風景のなかの建築－』, 河出書  
房新社。
- 4) 高見三明(2013)「長崎の教会群とキリス  
ト教関連遺産の世界文化遺産登録に向けて  
－長崎のカトリック教会の立場から－」な  
がさき経済, 2013, 4.
- 5) 木村勝彦(2007)「長崎におけるカトリッ  
ク教会巡礼とツーリズム」, 長崎国際大学  
論第7巻, p.123-133.
- 6) 池田拓朗(2017)「観光商品としての教会  
－長崎県五島列島を事例として－」観光学  
論集12, p.1-11.
- 7) 松井圭介(2013)『観光戦略としての宗教  
－長崎の教会群と場所の商品化－』, 筑波  
大学出版会。
- 8) 井上典子(2013)「平戸島西海岸地域の景  
観保全に関する研究」, 東京大学先端科学  
技術研究センター。
- 9) 杉本士郎(2015)「世界遺産登録を控えた  
地元における観光振興の取組み－南島原市  
－」, ながさき経済, 2015, 6, p.9-17.
- 10) 渡部恭久(2015)「民泊を核とした修学

<sup>8</sup> 運輸政策研究所第35回研究報告会資料、小室充  
弘「世界遺産を活用した観光振興のあり方に関  
する研究」において紹介された世界遺産観光に  
関する課題事項と対応策に関する内容を参考に  
した。

旅行誘致－南島原農林漁業体験型民泊事業の事例から－」, 調査研究情報誌 ECPR, No.1,p.56-62.

- 11) 小室充弘 (2014) 「世界遺産を活用した観光振興のあり方に関する研究」, 運輸政策研究 Vol.17,No.2,p.70-74.
- 12) 長崎県 (2014) 『旅する長崎学キリシタン文化』, 長崎文献社.
- 13) 吉田さらさ (2015) 『文学歴史 19. 長崎の教会』, JTB パブリッシング.
- 14) 南島原市 (2014) 『南島原歴史遺産』, 長崎文献社.

## 宗教改革期の女性統治者ブラウンシュヴァイクのエリーザベトの信仰観 - One for all, All for one -

伊勢田 奈 緒

### 1. はじめに

アウグスブルク帝国議会において、1555年9月25日、宗教和議が結ばれて、ルター派の諸侯、諸身分はカトリックと同権を認められた。「アウグスブルク信仰告白」は、カトリック教会の信条との同権を認められ、カトリックとプロテスタント両教徒の平和的共存原則は法的に確認された。そして、この信仰決定の自由を認められたのは、もっぱら領邦君主ないし帝国都市当局なのであって、その臣下たる個人ではなかったということだとされている。それは、「住民はその地の領主の信仰に従う」ことになったのであり、それを欲しないときには、他に移住することだけが認められたことであることはよく知られていることである。

しかし、ルター派である領主はどのような考えをもって住民に対して自分の信仰に従わせようとしたのであろうか。本来、カトリック信仰者であった者に、統治者から領民へ、すなわち「上」から「下」への命令によって信仰を改宗させるということに領主はどのような思いをもっていたのであろうか？

2010年、ハノーファーではブラウンシュヴァイク・カレンベルク<sup>1</sup>のエリーザベト(1510～1558)の生誕500年が盛大に行われ、

また、彼女が未亡人として継承したハン・ミュンデンでは毎年彼女の生誕を祝っている。彼女は統治した領内にルター主義を導入して宗教改革を行い、また後継者である息子に統治者としての教育をしつつ、摂政としてその務めを果たした。彼女は自分が選んだ自分の信仰を政治的に利用しようとしたのではなく、純粋に自分の領土に福音主義を広めることが真であり自分の務めであると思っていたと思われる。ところが、彼女は16世紀当時のドイツにおける宗教改革の政治面で、非常に模範的な働きをした女性統治者であると考えられるが、彼女の生涯や宗教改革についての研究はなされているもののその数は少なく、またドイツ語圏外での研究はほとんど見られない。また、日本においては、彼女の存在、さらにその働きについてほとんど知られていな

ク城とその周辺地域は独立的な分邦となった。この時の領土分割は、ヴォルフエンビュッテル侯ヴィルヘルム1世とその弟のハインリヒ2世が1428年から始めた4年間の共同統治の後に行われたものだった。ハインリヒ2世が単独のヴォルフエンビュッテル侯となり、ヴィルヘルム1世がカレンベルク侯領を得てカレンベルク城に居を定めた。ヴィルヘルム1世は1463年にゲッティンゲン侯領を相続、ハインリヒ2世が1473年に男子の無いまま死ぬと、ヴォルフエンビュッテル侯領を相続した為、カレンベルクとヴォルフエンビュッテルは再び合邦した。1491年、ヴィルヘルム1世の息子のヴィルヘルム2世は退位して2人の息子、ヴォルフエンビュッテル侯ハインリヒ1世とカレンベルク侯ゲッティンゲン侯エーリヒ1世に領土を譲った。1494年、兄弟は領土を分割し、兄のハインリヒ1世はヴォルフエンビュッテル侯となり、弟のエーリヒ1世は西部のカレンベルク及びゲッティンゲンを手に入れた。しかしヴェルフ家の分枝カレンベルク侯家は1540年、エーリヒ1世が死没した後、エリーザベトが摂政となり、その後、エーリヒ1世の息子エーリヒ2世が後継した。

<sup>1</sup> 1292年頃、ブラウンシュヴァイク＝リュネブルク公オットー2世はライネ川沿いの都市パッテンセンの郊外にあるカレンベルク山に城を建設した。オットー2世がこの地に城を築いたのは、ミュンデン司教領およびヒルデスハイム司教領と奪い合っていたヴェルフ家（ブラウンシュヴァイク＝リュネブルク家）領の西部地域の領有権を確固たるものにするためであった。1432年、ヴォルフエンビュッテル侯領の分割に伴い、カレンベル

い。

ここでは、はじめはカトリック信徒であることに何も疑問も抱かなかったブラウンシュヴァイクのエリーザベトが娘の立場、妻の立場、母の立場、未亡人の立場を経験していく中で、さまざまな問題に直面し、その試練の中で自らの救いを求め、結果、福音主義信仰を受容し、受動的な生き方から積極的な生き方へと変化していき、さらに自分の領内で福音主義をもって宗教改革を成し遂げようとしたその彼女の信仰観を支える要因を考察したい。

## 2. エリーザベトの領内への宗教改革について

エリーザベトはブランデンブルク公ヨアヒムとデンマーク王女エリーザベトの5人の子供のうちの次女に当たる。1525年、14歳で40歳年上のブラウンシュヴァイク・カレンベルクのエーリヒ1世と結婚した。まさに典型的な政略結婚である。彼女は15歳から24歳までに4人の子供を産んだ。彼女が25歳の時、カトリック信仰を固持していた実父ヨアヒム1世が亡くなり、彼女の兄がヨアヒム2世となり、父の後を継ぐことになる。1540年、彼女が30歳の時、夫エーリヒが亡くなった。その後、彼女は12歳の息子の摂政として、熱心な信仰と政治手腕で、領内の宗教改革を行った。改革は宗教改革の原則である「聖書のみ」を重視して模範的に行われたが、彼女は聖職者でもなく、神学を専門的に学んだわけでもない、あくまでも平信徒であった。

今、彼女の行った宗教改革はどのようなものであったかを見るが、その前にドイツにおいて領邦君主による宗教改革が行われるようになった背景を少し、述べておこう。1517年以降、マルティン・ルターの宗教改革運動が伝播していく中で、1522年には、ルターを支持する貧乏貴族がフッテン等に指導されて蜂起した。さらに1524年にはミュンツァーが大胆な社会改革なしに宗教改革は実現不可能だとし、キリスト教的共産主義の樹立を目指して立ち上がった。やがてミュンツァー等の運動に共鳴した貧農たちが大規模な一揆を

起こし、牧師を自由に選択する権利、教会税の軽減、農奴制の廃止を要求した。しかし、このような農民戦争も蜂起者の壊滅で収拾すると、宗教改革は領邦君主によって遂行されていく。これに対してカトリック側の動きも見逃せない。農民戦争によって、カトリック諸侯はますます結束を強めることになり、ルター派の一掃を図ることになる。カトリック側に対して1526年2月に、福音主義の諸侯がトルガウにおいて同盟を結んだ。この同盟の中心はザクセンとヘッセンであった。当然、福音主義に改宗した所では教会の財産や礼拝などで混乱が生じたことは推察できよう。ところで、福音主義の指導者であるルターは、最初はローマ教皇を含むカトリック教会の誤りに反対しつつも、新しい教会組織をつくりだそうとは考えていなかった。ルターにとって教会はあくまでも聖徒の交わりであった。他方、ルターは宗教改革運動をどのように進めていくかについて考えあぐねていた。他方ルターと宗教改革とに敵対的であった皇帝カール5世は、オスマン・トルコ勢力との対抗上、諸侯の協力が不可欠とみて1526年にはシュパイヤー国会でルター派諸侯の領内での宗教改革を許した。このことによって福音主義的教会組織作りが本格化していく。ザクセン選帝侯ヨハンはさっそくルターに領内の教会の組織化を命じ、1528年、ザクセンの各教区を州知事任命の牧師に任せ、あわせて教会巡察制度を採用した。この頃、ルターの片腕となったのがヨハネス・ブーゲンハーゲンであった。他方、エリーザベトと親しいヘッセン伯フィリップもシュパイヤー国会の決定後、ルターとザクセン選帝侯領の模範に従って法的に宗教改革を行っていった。こうしてルター派教会は領邦君主を庇護者、管理者とする領邦教会の形をとって各地に広がっていくことになる。ルター派は、ルターの信仰告白を下に穩健なルター派のメランヒトンが起草した『アウグスブルク信仰告白』をもって、ルターの信仰を受け入れた者たちの合意としての福音信仰を明らかにした。このようなことから、ルター派の宗教改革運動にとっての領邦君主の存在は非常に大きなものであった。

本稿のブラウنشユヴァイクのエリーザベトも、16世紀の最も影響力のある宗教改革推進者であり、領邦君主である一人であると言えよう。16世紀のドイツ語圏内で『アウグスブルク信仰告白』を受容した宗教改革者の中で、彼女は自分自身の命の危険を賭しても、指揮官としてその権力を用いて自分の領内にルターの信仰を確立しようとした。もちろん、彼女は新しい福音主義の教えを通じて、領主から領民にいたる共通の倫理的規範を軸にして、これによって家臣統制と領民支配を容易にできることを信じ、支配していったと推察できる。

エリーザベトは、夫エーリッヒ公の突然の死後、息子が成人するまで摂政として福音主義を自分の領土内に広めると共に、同時に彼女は統治者として領内を治めていくが<sup>2</sup> 実は当時、エリーザベトが摂政になる前に既に、領内のゲッティンゲンとハノーファーの両都市はルター主義を表明し、ノルトハイムも二都市に続いていた。またエリーザベトは、未亡人として継承する権利があったハン・ミュンデンを既に統治しており、統治者としての実績があった。エリーザベトは法に則り、また、ルターの説教を通して、敬愛するルターなどの改革者や近隣のルター派の統治者たちの助言や支えをもって、また、彼女の子供たち、臣下たちへの常に変わらない母性的助言を提供しながら、息子エーリヒが成人するまでに領内統治を整え、ルターの信仰が浸透するように努め、息子へうまく後継できるように奮闘していった。1542年にアントン・コルヴィヌス<sup>3</sup> と共に、エリーザベトは、アウ

グスブルク信仰告白を基調としたカレンベルク教会規則を制定した<sup>4</sup>。1542年5月から6月にかけて、この教会規則が領内全てに一修道院、貴族を含む一告知された。それには聖職者への十分なキリスト教育、平信徒へのカテキズム、神の言葉の促進、二種倍餐、そしてアウグスブルク信仰告白に従うことが明記されていた。さらに、内縁の妻をもっている司祭は、その相手と正式に結婚しなければ職を失うことを定めていた。これは苦い経験をしているエリーザベトだからこそ、この規則が記されていると解せよう。彼女は、教会規則によって改革を命じると共に、1542年11月から1543年4月にかけてコルヴィヌスと共に自ら、すべての教会や修道院の巡察<sup>5</sup> を行って、領内の実態を監察しつつ、改革を知らせようと努めた。また同年同日、彼女は修道院法を発布した。そこでは修道院の廃止は定めず、そこに残りたい者は、残って良いとし、しかし残ることに決めた者でも、いつでもそこを出てよいと定めた。これは財産がないために修道院に入れられたような貧しい者や女性たちに配慮したものであった。また修道院にいる者は今までの修道会服は禁じら

追い出された。彼はヒューマニスト学者やエラスムスの著作を通して改革思想を持つようになり独学で多くの知識を得ていく。1528年にゴスラー(Goslar)のルター派教会の牧師となる。コルヴィヌスはヴィッテンベルクヘゴスラーの代表の一人として派遣されたとき、ヴィッテンベルクの改革者たちと出会った。彼らの思想を確信し、以後コルヴィヌスは彼らとコンタクトを取り続けた。1529年にヘッセンのフィリップの神学顧問となり、また、彼は1536年にマルブルク大学で修士号を取っている。コルヴィヌスは多くの重要な会議に参加した。すなわち、1535年のカッセルで行われたプーツァーとメランヒトンとの討論、1537年のシュマルカルデン同盟の会議(コルヴィヌスはシュマルカルデン条項にサインをしている)、そして1539年から1541年までニュルンベルク、ハーゲナウ、ウォルムス、レーゲンスブルクで行われた討論に参加した。ヘッセンのフィリップは彼を1536年に数名の投獄したアナバプテストのリーダーをルター派に回心させようとしてミュンスターへ送った。コルヴィヌスは教会行政、説教、執筆者として優れていた。彼は重要な注解書を出している。

<sup>4</sup> Nebig, Ernst-August, Elisabeth: Herzogin von Calenberg, Göttingen, 2006, p.51

<sup>5</sup> Ibid., 2006, p.59

<sup>2</sup> エリーザベトの宮廷に仕える者は200人と見積もられていて、財政、司法、宝石、食料品や家畜についても詳しく知るし、雄牛羊、うさぎ、めんどり、がちょう、ベーコン、チーズ、バター、ぶどう酒やビールに至るまでの記録が残されている。

<sup>3</sup> Corvinus, Antonius (1501-1553)

北ドイツ神学者であり宗教改革者である。ヴァーブルク(Warburg)に生まれる。1519年に見習い修道士としてロックム(Loccum)修道院に入り、ライプツヒで勉強のため送られ、1523年にリダガスハウゼン(Riddagshausen)のシトー修道会からルターに同調している理由で

れ、修道女のうち若者はそれまでの幅広のベールではなく細い普通の人と同じ帽子を着用するように命じた。彼女は「修道院を廃止するのが目標ではなく、福音を伝えることが目標である」としている<sup>6</sup>が、彼女の思いは領民の魂の救いが前提にあったと考えられる。また、彼女は書簡<sup>7</sup>の中で、改革は易しいものではないと吐露しているが、しかしまず、領民の信用を得て、適切な説教を提供して、共に豊かなキリスト者の生活を目指していたことも読み取れる。

エリーザベトは宗教改革を導入するとともに統治者として領民の平安な生活を与えることを模索している姿はまるで領民の母のような存在であったのではないだろうか。彼女は、領内の4大都市、ゲッティンゲン、ハノーファー、ノルトハイム、ハーメルンのお互いの協同が大事であると考えた。4大都市を中心に、領内において、神の名の下、聖職者に罪を悔い改める説教をするように求め、また、快楽主義を謳歌している貴族たちにその生活態度を見直すように警告し、他方、金貸しや貸付業者の不当を戒めた。また、既に述べたように聖職者の結婚を勧めた。これは、ルターが教会の司祭が結婚するか、しないかは各人の自由に任せるべきとし、独身誓願に対しても独身制は神の定めに対するものという主張をしているが、エリーザベトはもちろん、結婚することに敬意を払った。しかし、本音は不当な扱いの女性を出さないためであったと考えられる。領土内の改革において彼女は苦しんでいる女性たちに常に気を配り、またキリストにある平等観をもって統治者をし

<sup>6</sup> Ibid., 2006, p.60

<sup>7</sup> Ein Christlicher Sendebrief der Durchleuchtingen Hochgebornen Fürstinnen vnd Frauen F. Elisabeth, geborne Marggraffinnen zu Brandenburg, etc. Hertzoginnen zu Braunschweig und Luneburg etc. Witwen, an alle irer F.G. vund irer F.G. hertzlieben Sons Hertzogen Erichs Vndertanen geschreiben, Christliche besserung vnd neues Gottseliges leben so in dieser lesten bösen zeit die hohe nod fordert/belangend. Mit eine vorede Antonii Coruini. Hannover, 1545. Gottfried Wilhelm Leibniz Bibliothek Hannover, C 1628; Herzog August Bibliothek Wolfenbüttel, H-J46.8Helmst.(14)

た。

以上のようにブラウンシュヴァイク・カレンベルク・ゲッティンゲン公領では息子エーリッヒ2世の後見役を務めていたエリーザベトが領民の平安を祈りながら宗教改革を行いながら領内を治めていった。

### 3. なぜエリーザベトは領内で宗教改革を行うことができたのか？—三つの要因について—

彼女は、一宗教改革者として、ブラウンシュヴァイク・カレンベルク・ゲッティンゲン公領の領主として、福音主義を促進することと領土内の人々の平安を結び付けて統治した。しかし、彼女自身は娘として、妻として、母として、未亡人として、決して幸福とは言えなかった。一人の女性としてさまざまな苦悩と葛藤があり、さらに彼女には一般の女性とは異なる支配階級の立場に置かれているという特別な宿命があった。はじめはまったく福音主義を理解できず、父の、家の、伝統の、カトリック信仰に縛られていた彼女には、キリスト信仰による救いはなく、魂の自由もなかったと考えられる。しかし、福音主義を受け容れた彼女は、自分が救われたことで、自分の領内全体を福音主義に変える決心をするようになっていく。なぜ、近隣諸国のこせりあいの絶えない中であって女性である彼女が、領内をカトリック信仰から福音主義へ変えることができ、安寧な「国造り」をすることができたのかを考える時、3つの大きな要因があったと考える。それは、まず、彼女の宿命とも言える彼女の家柄、血筋である。彼女の置かれている権威をうまく利用して改革を進めることができた。二番目は、女性としての苦悩である。娘として妻として、母として、未亡人として、辛苦をなめてきた。彼女の不幸が領民への、特に不幸な女性達への幸福を考えるようになった。最後に、彼女の成功には、大きな支えがあった。すなわち、福音主義の統治者として立っていく彼女を政治的にも個人的にも支える協力者がいたことである。以上の三点の上に、キリスト者として

の自由と使命観が彼女を領内における宗教改革へ突き動かしていたと考えられよう。

### ① 家柄、血筋の宿命

まず、彼女の家柄と血筋についてであるが、エリーザベトは1510年にケルンで生まれ、彼女の父はブランデンブルク選帝侯ヨアヒム1世で、マインツの大司教であったホーエンツォレル家のアルブレヒト枢機卿の兄弟と共にルターに反対した人物である。ドイツにおいては中央集権と地方分権との対立が中世以降、続いていた。神聖ローマ帝国の皇帝カール5世は国会や法廷などを用いて中央集権を図ろうとしたのであるが、領邦は独立を保持しようとして皇帝に抵抗して、こぜりあいは絶えなかった。同様に領邦内では貴族や農民達が諸侯たちに対して抵抗していた。また、1517年、ルターが宗教改革への火蓋を切って以来、1520年代から30年代はルター派による活動が活発な時であり、ドイツでは、カトリックとプロテスタント両派の対立が起こり、問題が複雑且つ、深刻化していった。さらに領邦を兄弟に分割するしきたりによって、領邦は細分化していった。当時、ザクセンはエルネスティン家領とアルベルティン家領に分割されていた。エリーザベトの父であるヨアヒム1世は後に、ブランデンブルク選帝侯の身分を長男であり、エリーザベトの兄、ヨアヒム2世に譲り（1539年にルター派に改宗）、キュストリン地方は弟の、エリーザベトの弟、ヨハン（ルター派に改宗）に与えることになる。他方、彼女の母ブランデンブルク侯妃エリーザベトは、デンマーク王女であり、デンマークにルター主義を導入したクリスチャン2世の姉妹で、彼女の母クリスティーネは共にザクセン選帝侯となったフリードリヒ賢公とヨハン堅忍公の姉妹であった。エリーザベトには、兄のヨアヒム（後にヨアヒム2世）、姉のメクレンブルク侯妃になったアンナ、妹のアンハルト公妃のマルガレータ、弟のヨハンがいた。このような家柄故に、エリーザベトは政略結婚は宿命であり、既に述べたように、14歳で、40歳年上のエーリヒ1世と結婚することになった。

夫となったエーリヒ1世の父はブラウン

シュヴァイクのヴィルヘルム2世である。当時、ブラウنشユヴァイクも同様に分割されていた。1491年、ヴィルヘルム1世の息子のヴィルヘルム2世は退位して2人の息子、ヴォルフエンビュッテル侯ハイน์リヒ1世とカレンベルク＝ゲッティンゲン侯エーリヒ1世に領土を譲った。1494年、兄弟は領土を分割し、兄のハイน์リヒ1世はヴォルフエンビュッテル侯となり、弟のエーリヒ1世は西部のカレンベルク及びゲッティンゲンを手に入れその地を治めていた。以上のようにエリーザベトは彼女にとってこのような宿命ともいえる家柄、血筋に縛られていたが、だからこそ息子が成人するまで摂政という地位を得られたのであり、その権威の下、領内に福音主義を導入する大事業を行えたのでであると考えられよう。

### ② 娘として妻として母として未亡人としての苦悩を乗り越えて

娘としてまず、14歳で結婚しなければならなかったことは彼女にとって大きな試練となったであろう。加えて、彼女には母親の問題があった。家族を棄てて、命を賭けてまで新しい信仰を持ち続けようとした母が理解できなかった。しかし、それは別の見方をすれば、彼女がルターの教えに関心を持つようになるきっかけとなったのも確かなことである。エリーザベトの母であるブランデンブルク侯妃エリーザベトの背景を見ると、政略結婚と宗教の問題が実に複雑に交錯していて、個人の宗教の問題が政治的に問題を絡んでいる。母エリーザベトは27歳の時、5人の子がいたが、夫は愛人の下へ行き、彼女は孤独となり教会へ行ったが彼女の魂は救われなかった。彼女は魂の糧を求めて、巡回伝道者たちの話を聞いたり、ルター訳の聖書を読むようになり、1527年のイースターに夫の留守中にルター派の牧師から、二種陪餐—パンとぶどう酒に与る聖餐—を受け、ルター主義に改宗した。これ以降、信仰についての相違によって母エリーザベトと父ヨアヒム1世の仲はいっそう陰悪となるが、1535年、エリーザベトが25歳の時に父は亡くなった。母は自分の魂の救いのため信仰に熱心であった

が、しかし母親としての自覚は希薄であったように推察できる。エリーザベトは愛情のない夫婦である両親のもと、娘としてあまり愛されずに育ったと察せられる。

次に妻としてのエリーザベトについてであるが、40歳の年の差がある夫婦であったからか、大したいざこざもなく結婚生活を送ったようである。しかし年齢差故にお互いに理解し合うことは難しかったのではないかと思われる。また、彼女の夫エーリヒは、主としてエリックスブルクか、カレンベルクに、エリーザベトはハン・ミュンデンに住むという、居を異にする結婚生活であった。彼女が15歳の時に、長女エリーザベトが生まれ、続いて長男エーリヒ、そしてアンナ・マリア、そして1534年、24歳の時にカタリーナが生まれ、彼女は四人の母親となった。しかし、この1534年は彼女にとって人生の転換点となった。まず、彼女にとって最後の子供であるカタリーナが生まれたこと、その後の夫の愛人騒動、そしてルターとの出会いである。エリーザベトとエーリヒは、前述したように、夫婦は仲が悪くはなかったようであるが、しかし、アンナ・マリアが生まれた直後から、彼女は体を壊し、他方、エーリヒ公は先妻が亡くなった後のかつての彼の愛人であったアンナ・フォン・ルムショッテル (Anna von Rumschottels) の所へ行くようになった。夫の愛人のことを知った彼女は、心身共に害することになる。そしてこの愛人のことが公に発覚して領内で大問題となり、1534年、アンナに対する魔女狩りが行われた。しかし、この一件はアンナ・フォン・ルムショッテルではない別の者が焼殺され、彼女自身は逃亡することで、追放となっただけであった<sup>8</sup>。ところで、一連のこの騒動を経て、それまで受動的な生き方をしていたエリーザベトであったが、精神的に強くなり、自立した女性としての生き方に目覚めたようであり、他方、夫エーリヒの方は、自分のした不貞を深く後悔すると共に、妻に対して、ブラウンシュヴァ

イク・カレンベルク内のゲッティンゲンとハノーファーの地を統治する権利を与えたのであった。これ以降、エリーザベトはこれらの地を自由に支配することができるようになったのである。また1534年に、彼女はルターを直接に知るようになる。実は、彼女は母に対して罪悪感をもっていた。それは、彼女が以前、母が新しい聖餐式でパンとぶどう酒に与ったことを、すなわち、福音主義に改宗したことを、父に密告したことによって、母がケルンには帰れなくなり、逃亡生活を送ることになったからであった。彼女は、母をかつて裏切ってしまったことを神にぎんげすると共に母に謝罪した。しかし、母は寛大にも赦してくれたのであった。この事以来、彼女は次第に母を通じてルターの教えを知りたいと思うようになる。しかし、初めはルターに対して反目していた。それはルターが、彼女が今まで信じていた教皇や司教を激しく攻撃する話をするところからであり、さらに彼がマイントの大司教であった彼女の伯父アルブレヒトやゲオルゲ公に対して、地獄におちるよう神に祈る、という説教を人々にしているのを聞いて驚いたからでもあった<sup>9</sup>。彼女は母の信仰に触れ、またルターと定期的に信仰の疑問について書簡を交換するようになり、次第に福音主義の教えを理解するようになっていった<sup>10</sup>。そしてついに、彼女は1538年4月7日に、福音主義の信仰を公にした。「神の言葉を私は愛し、領土について祈ります。神の言葉は神の喜びに従って聞こえます。そして神の言葉は私の誠実な避難所です。<sup>11</sup>」というエリーザベトのこの言葉は彼女がいかにルターの教えを受容し、それを生きる支えとし、またその教えが良いものだと心から信じて、それを自分の領内にどうしても浸透させたいという熱い思いが伝わってくるものである。

<sup>9</sup> William Chapman, *Notable Women of the Reformation*, Memphis, 2012, p.21

<sup>10</sup> ルターはエリーザベトに個人的に彼の翻訳したドイツ語訳の聖書を献呈している。

<sup>11</sup> Sonja Domröse, *Frauerder Reformationszeit*, Göttingen, 2010, pp.101

<sup>8</sup> Sonja Domröse, *Frauerder Reformationszeit*, Göttingen, 2010, pp.102-103

母としての彼女は子どもたちに福音主義に基づいた教育を授けた。特に彼女は息子のために王の心得を書き、娘のために妻の心得を書き遺しているところから、息子が良き領主となることに、また、娘達が良き妻、母になるように懸命に子育てをしたことがうかがえる。彼女が未亡人になったのは30歳になったばかりであった。摂政となった彼女の目標はブラウンシュヴァイク・カレンベルクを誰にも渡さず、息子のエーリヒのために確保していくことを心に誓い、プロテスタント信奉者の女性統治者として歩いていくことになる。エーリヒの遺言には自分が死んだとき、息子が青年に達していない時には、摂政をおくとし、エリーザベトを摂政に指名することが記されていた。そして、後見人としてヴォルフエンビュッテル侯ハイネリヒとヘッセン伯のフィリップ、エリーザベトの兄であるブランデンブルクのヨアヒム2世を指名していた。未亡人として親として、そして領内を治めていくことは彼女にとってどれだけの重圧であったかと思われるが、彼女にはそれを力に変える情熱があったように思われる。

以上、娘として、妻として、母として、未亡人としてのエリーザベトの試練は非常に重いものであったと想像される。ルターは試練を克服するための手段は聖書の言葉であり、試練は祈ることを教え、祈りは試練を克服することに導くと教えたが、彼女は度重なる試練をまさに聖書の言葉でたくましく乗り越えることができたと考えられ、その試練は彼女の生き方を変え、宗教改革への意欲の原動力となったと推察できよう。

### ③ エリーザベトの宗教改革を支えた人たち

彼女の領内への福音化が進められたのは、なんと言ってもアントン・コルヴィヌスによる。彼はヘッセンのフィリップ伯の紹介で、エリーザベトの下で宮廷牧師となった。彼女の片腕として、領内を巡察したり、教会行政にその手腕を発揮したり、またすぐれた説教をする、熱心で有能な人物であった。次に彼女の福音主義の統治者としての在り方を支え続けたのがヘッセンのフィリップである。エリーザベトの不倶戴天の敵はブラウンシュ

ヴァイク・カレンベルクに近接しているブラウンシュヴァイク・ヴォルフエンビュッテルを支配しているカトリック信奉者であるハイネツであり、彼はエリーザベトがブラウンシュヴァイク・カレンベルクを統治している間、常に彼女の領土を脅かしてきた。この対抗者に対して、プロテスタント陣営のリーダーであるフィリップ伯が彼女を政治面や治安面で大いに助け、また彼女も彼を頼りにしていた。彼はルターを支持した最も有能なドイツの領主であり、19歳の時、政略結婚によってザクセン公のクリスティネを妻とした。農民戦争に際してその鎮圧を止めて、民衆の共感を得られなかったが、1524年に領内にいち早く宗教改革を導入し、1527年にはマールブルクにプロテスタント最初の大学を創設した。その後、1529年には第2回シュパイエル国会においてカトリックに抗争し、その後、事態の悪化に憂慮してプロテスタントの一致協力をはかり、ルターとツヴィングリの一致のためにマールブルク会議を開いたが、失敗に終わった。アウグスブルク信仰告白には、その聖餐論に満足しなかったが、署名者のひとりとなった。また1531年にはスイスと同盟を結んだが、カッペルの戦いに荷担しなかった。既に述べたように、プロテスタント諸侯の連合に成功し、ザクセン選帝侯ヨハンとともにシュマルカルデン同盟を結成しその中心となり、皇帝カール5世に対抗した。イギリス、フランス、デンマークなども同盟に加えようと努力した。ところでルターの晩年にフィリップの重婚問題が起こった。この頃、エリーザベトは既に福音主義を受け容れていた時期であるが、フィリップを信頼していた彼女はこの事件にどのように感じたのであろうか。政略結婚で結婚していたフィリップであるが福音主義者になってから一人の女性に愛情を感じ、結婚することを望んだが、ここに重婚問題が発生した。彼はルターに相談したが、彼は離婚は姦淫の理由以外に認められないと考えた。そこで、ルターは旧訳聖書のダビデやソロモンの例をもってフィリップが第二夫人をもつことは良心に恥じることはないかと忠告した。しかし、当時の国

宝は第二夫人を禁止していた。これについてはエリーザベトが夫の愛人アンナについて魔女裁判が行われた例でもわかる。とうとう第二夫人については秘密にすることになったが、第二夫人となった女性の母親が秘密を拒み、事件が明るみに出てしまった。このことで、ルターの評判を落としただけでなく、福音主義の運動にも悪い影響を与えてしまったのである。国法にふれるこの行為が公になったために、彼は窮地に立ったが、皇帝に反抗しない約束で助けられた。こうしてプロテスタント陣営での指導部を失い、さらにシュマルカルデン戦争においてザクセン選帝侯フリードリヒとともに、敗れ、投獄された。このような背景があるフィリップであるが、しかし、息子エーリッヒの後見人の一人であった彼がエリーザベトをプロテスタントの領主として、統治面からも信仰面からも支えられたことは確かなことであろうし、大きな存在であったと考えられる。

また、ルター派の政治網に通じている彼女の弟キュストリンのヨハンは母の良き理解者であると共に、エリーザベトにとって身内で最も信頼できる存在であり、宗教面の相談相手であり、政治、行政面の教師でもあった。もちろん、ルターも彼女の大きい相談相手であった。1534年、エリーザベトは母とのことがきっかけで、ルターと知り合うようになる。彼とは書簡を通して、エリーザベト個人の救いの問題から、やがて領内への宗教の改革の問いまで、尋ねる問柄になっていった。

このように彼女が宗教改革を行っていくにあたって、彼女の周りには宗教面、政治面、行政面の良きエキスパートがいた。このことは彼女が宗教改革を促進するに際し、大きな意味をもっていただと考えられるが、さらに彼女を支えていたのがルターのキリスト者の在り方の思想であったと考えられる。

ルターは、『キリスト者の自由』において、キリスト者が他人に対してなすべきわざについて、その理由と隣人愛の大切さを説いている。人間はこの世で自分だけで生きているのではない。他人との交流と相互扶助のもとに生

きている。キリスト者は自分自身のために生きるのではなく、むしろ、他人のために生きなければならない。わたしたちはキリストがなしたように、隣人のために、一人のキリストになって、隣人の利益をはかり、その救いのためにつとめなければならない。キリスト者にとっては、信仰から神への愛と喜びがあふれて、また愛から値なしに隣人に奉仕する自由な、自発的な、喜びにみち生活が始まるのである。だから、キリスト者は他人への奉仕において、相手の称賛、感謝、報酬を期待したり、妄想、非難などを気にすることなく、たとえ忘恩や非難などによって大きな打撃をこうむろうとも、他人に役立つことであれば喜んで自分のものを与えるのである。このようにしてこそ、キリスト者が神からもつ宝は、一人から他の人々へ広がって共通のものとなり、各人が隣人のことをあたかも自分自身のことのように考え、ふるまうようになる。しかもこの宝はキリストから由来したものであり、今もなお、これを必要とする人々にそそがれていると説いているが、さまざまな試練を神の言葉により乗り越えエリーザベトはキリスト教的人間であろうと心に誓い、福音主義を貫く自立した女性統治者として生きたのであると考える。

#### 4. 最後に

既に述べてきたように彼女の人生は悲しみと苦悩の連続であったと考えられる。わずか14歳で40歳年上の相手と結婚し、さらに妻として夫の不貞に苦悩し、娘として宗教の違いによる母と父の不仲、母として子育ての苦労など、一人の女性として非常な辛苦を体験した。その彼女は両親が憎しみ合う原因となったルターの教えがはじめは理解できなかったが、しかし、彼女は福音主義に回心したことによって、魂が救われたことから、女性たちへの幸福や領民に対する安寧を熱心に求めるようになり、また、息子に安定した領内をうまく繋げられるようにするために、自分の家柄、血筋をうまく利用しつつ、ルター、コルヴィヌス、ヘッセンのフィリップ、兄、母、領民に支えられて、領内の宗教改革を成し遂

げられたと考えられる。メラnhitonは「エリーザベトは穏やかで愛すべき母なる心をもって、信徒に福音を伝え、養い、広めていく教会を建てていった」<sup>12)</sup>と評しているが、ブラウンシュヴァイクのエリーザベトはキリスト教的人間、すなわち、人間とは神に義とされた自由な存在であり、愛の奉仕に生きる存在であることに喜びをもって生きた女性であった。彼女は All for One, ルターの教えを通して、自分の魂が救われたことによって、一人のキリスト者として領民への福音主義を伝えることが、領民の幸せと考え、女性の視点に立った宗教改革を行った優れた統治者であったと言え、領民も彼女の統治に対して One for All で応えていったと言えよう。

最後に『キリスト者の自由』より、第三十、これらすべてのことから、次の結論が出てくる。すなわち、キリスト者は自分自身においては域内で、キリストと隣人において生きる。キリストにおいては信仰によって、隣人においては愛によって生きるのである。キリスト者は信仰によって自分自身を超えて、神のうちにとどまり続ける。ちょうど、キリストがヨハネによる福音書第一章で「天が開けて、神の天使たちが、人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる」と言われているとおりである。見よ、これこそ真の霊的なキリスト教的自由であって、あらゆる罪と律法と戒めから心を解放するものであり、天が地と隔たるように、他のすべての自由に優る自由なのである。<sup>13)</sup>

《参考文献》

Andrea Lilienthal, Die Fürstin und die Macht; Welfische Herzoginnen im 16. Jahrhundert; Elisabeth, Sidonia, Sophia, Hannover, 2007  
Dieter Diestelmann, Braunschweig, Regensburg, 2014  
Ein Christlicher Sendebrief der

<sup>12)</sup> Sonja Domröse, Frauender Reformationszeit, Göttingen, 2010, p101

<sup>13)</sup> ルター (著) 徳善義和 (訳) 『キリスト者の自由』、教文館、2011年、53頁

Durchleuchtingen Hochgebornen Fürstinnen vnd Frawen F. Elisabeth, geborne Marggraffinnen zu Brandenburg, etc. Hertzoginnen zu Braunschweig und Luneburg etc. Witwen, an alle irer F.G. vund irer F.G. hertzlieben Sons Hertzogen Erichs Vndertanen geschreiben, Christliche besserung vnd neues Gottseliges leben so in dieser lesten bösen zeit die hohe nod fordert/belangend. Mit eine voredede Antonii Coruini. Hannover, 1545. Gottfried Wilhelm Leibniz Bibliothek Hannover, C 1628; Herzog August Bibliothek Wolfenbüttel, H:J46.8Helmst. (14)  
Elenore Dehnerdt, Die Reformatorin, Stuttgart, 1999  
Ernst-August Nebig, Elisabeth: Hersogin von Calenberg, Göttingen, 2006  
Frymire, J. The Primacy of the Postils; Catholics  
Georg Liebusch, Elisabeth von Danemark, Kurfürstin von Brandenburg: Ein Lebensbild, Berlin  
Ingeborg Mengel, Elisabeth von Braunschweig-Lüneburg und Albrecht von Preussen, Göttingen, 1954  
Kirst Stjerna, Elisabeth, Duchess of Braunschweig-Lüneburg and Reformer, in Lutheran Q. Vol. 27 No. 2 2013, pp. 188-210  
Roland H. Baiton, Women of the Reformation, Mineapolis, 1971  
Simona Schellenberger, Andre Thieme und Dirk Welich, eine Starke Frauengeschichte 500 Jahre Reformation, Leipzig, 2014  
Sonja Domröse, Frauender Reformationszeit, Göttingen, 2010  
Ursula Koch, Die gelebte Botschaft; Frauen der Reformation, Hamburg, 2010  
William Chapman, Notable Women of the Reformation, Memphis, 2012  
P. ブリックレ (著) 田中真造、増本浩子 (訳)

『ドイツの宗教改革』、教文館、1991年  
ヘルマン・テュヒレ他『キリスト教史5』平凡社、1997年  
長谷川輝夫/大久保桂子/土肥恒之『世界の歴史17』、中央公論社、1997年  
富本健輔、『宗教改革運動の展開』、風間書房、1978年  
B. メラー（著）、森田/棟居/石引（訳）『帝国都市と宗教改革』教文館、1990年  
倉松功『教会史 中』、日本キリスト教団出版局、1994年

ルター（著）徳善義和（訳）『キリスト者の自由』、教文館、2011年  
ルター『ルター著作集』第一集第二巻、聖文舎、1963年  
ルター研究所（編）『「キリスト者の自由」を読む』、リトン、2016年  
ルター研究所（編）『ルターと宗教改革事典』、教文館、1995年  
「キリスト教研究年報」第三号、静岡英和学院大学、2015年3月



## チャペル(chapel)の意義を求めて —韓国におけるキリスト教系大学のチャペルの動向—

金 承 子

### 1. はじめに

筆者が本学に赴任して2年が経過しており、昨年度、初めて静岡英和学院大学の『キリスト教研究会』に所属された。本学では「キリスト教の精神に基づき」<sup>1</sup>、新1年生を対象に毎週水曜日10時半から新館五階講堂にて礼拝が行われている。1年生は必修だが、2年生以上は自由である。本学のキリスト教研究会では、「キリスト教大学の建学の精神を学生たちに直接、吹き込む場が先ず、礼拝である」<sup>2</sup>(伊勢田他、2016)とその意義を置く。

その礼拝における「学生の意識調査」を把握すべく、2016年～2017年にかけてアンケートを実施した。その結果<sup>3</sup>、全体の応答者の90%以上が非キリスト教であることが判明された。しかしながら、本学のイメージについて50%以上の学生がよい好感度を持っており、礼拝前と礼拝後に関する質問についても良い意味で変わったと返答している。大変喜ばしい結果であると言える。

ただし、その反面、同質問に対する否定的な返答(約6%)と「義務だから仕方がない

と思っている」(約20%)との返答もあった。

世界的に有宗教者の数は減少傾向にあり、否定的に捉えている風潮が少なからずある。今の時代こそ、現在の状況を把握し、時代の流れを読まなければならない環境に置かれている。

本学における今回の調査は、今後、礼拝の進むべき方向を考えさせられるような良いきっかけになったのではないかと思う。

従って、本稿は、韓国キリスト教系大学において中心的な位置づけがなされてきた「チャペル(chapel)」というテーマに焦点を合わせ、その理論的研究の系譜をあとづけることを試みた。この10年ほどの間に韓国キリスト教大学における「礼拝に関する調査研究」は活発に行われているようだ。それを全部調査することはできないが、電子ジャーナルとオンライン上での検索可能な先行研究だけを制限して1991年～2016年の間に行われたキリスト教大学のチャペルに関する研究を追いかけ、礼拝に対する新たな意義を求めたい。

### 2. 韓国宗教人口の概観—若年層の離脱

2016年12月に韓国統計庁が発表した「2015年人口住宅総調査」<sup>4</sup>によると、総人口数は5,132万名である。その中で、有宗教人口は43.9%、無宗教人口は56.1%となり、人口住宅総調査以来、無宗教人口が初めて半分を超えた(図表1参照)。

<sup>1</sup> 静岡英和学院大学の使命・目的として、次のように記入されている。静岡英和学院大学(以下、「本学」という。)は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、キリスト教の精神に基づき、学問研究及び教育の機関として責任を伴う自由で自立した人格を形成するとともに、愛と奉仕の精神をもって、地域社会と人間社会に貢献する国際的感覚の豊かな人材を育成することを目的とする(大学学則第1条)

<sup>2</sup> 伊勢田奈緒・中原陽三・山田美代子・崔映・金承子「礼拝を通しての学び—一年生全員からのアンケートを通して—(研究ノート)」『キリスト教研究年報』第5号、2016年3月、27～37ページ

<sup>3</sup> 同上書

<sup>4</sup> 韓国統計庁HP「人口、人口成長率(2015年)」  
[http://www.index.go.kr/potal/main/EachDtlPageDetail.do?idx\\_cd=1009](http://www.index.go.kr/potal/main/EachDtlPageDetail.do?idx_cd=1009) (2018/1/26日閲覧)

また、韓国は3大宗教団体と言われる仏教、キリスト教、カトリック教とその他の自生的な新宗教が共存している多宗教社会である。

図表1 宗教人と非宗教人の変化 (単位:千名)

年度	宗教人	非宗教人
2005年	24,526	21,826
2015年	21,554	27,499

※韓国統計庁「人口住宅総調査3大宗教団信者数推移(2015年)」により筆者作成

今回、最も多かった宗教団体はキリスト教(約19.7%)で、仏教(約15.5%)、カトリック教(約7.9%)の順であることが明らかになった。驚くことに、前回まで最大信者数を守ってきた仏教信者の数が2005年に1058万8000人、2015年761万9000人で、296万9000人が減少したのである。さらに、1位になったキリスト教は2005年に844万6000人、2015年967万6000人で、123万人が増えた。加えて、3位であるカトリックは100万人が急減したと発表された(図表2参照)。

図表2 2015年度宗教人口統計調査 (単位:千名)

代表的な宗教団体	宗教人口
キリスト教	9,675,761(19.7%)
仏教	7,619,332(15.5%)
カトリック教	3,890,311(7.9%)
その他	368,270(0.7%)

※2015年度人口住宅総調査による3大宗教団信者数推移(出典韓国統計庁)により筆者作成

これまで、政府や民間リサーチ機関の調査の時に最も多くの信者数を占めていた仏教がなんと300万人が減ったことになっている。今回予想を超える結果に、各宗教団体からのWeb上での議論が絶えない<sup>5</sup>。非宗教人の間には仏教への好感度が高く、次はカトリック教、最後はキリスト教の順であることが興味深い<sup>6</sup>。

ところで、本稿で注目した項目は若年層の

<sup>5</sup> 宗教人口統計の解釈がまちまちに伴い、議論を簡単におさまらなると予想される。<http://www.newscj.com> (天地日報 2018/1/26 閲覧)

脱宗教化である。今回の調査では宗教を持っていない人口のなかで20代が64.9%で最も多く、10代は62%に達した<sup>7</sup>。

以前、韓国Gallop社により面接調査を通して実施された「韓国人の宗教」報告書でも20～30代の宗教人比率が10年前に比べて各々14%、11%減少し、宗教人口の高齢化現状を見せていることを発表した(2014)<sup>8</sup>。

両調査による若年層の宗教離脱の主な理由は、宗教に対する無関心であった。その他、「宗教に対する不信と失望」、「精神的、時間的余裕がない」、「自分自身を信じているから」であった。

また、次のような不安の要素が作用されるのではないかと考えられる。韓国では激しい競争入試という制度の中で、ストレス、情緒的不安、うつや心の病などに陥る若年層が少なくない。そのような若年層は果たして宗教が人生にどのような意味を与え、幸せな生活を営むことができるか否かという否定的な思考を持つことになり、それが宗教への無関心に繋がってしまうのである。

従って、全体的に韓国宗教者の数が減少したのは20～30代の宗教離脱などによる原因が大きいと言っても過言ではないでしょう。

### 3. 韓国キリスト教大学チャペルの本質

キリスト教大学が実施しているチャペルの達成目的は何であろうか、礼拝そのものであるのか、福音であるのか、また、キリスト教的教養を身に付けさせるためのものであるの

<sup>6</sup> 韓国統計庁HP「人口、人口成長率(2015年)」  
<http://www.census.go.kr/mainView.do> (2018/1/26 日閲覧)

<sup>7</sup> 韓国統計庁HP「性、年齢別及び宗教別人口調査(2015年)」  
[http://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT\\_1PM1502&vw\\_cd=MT\\_OTITLE&list\\_id=MT\\_CTITLE\\_A1\\_MT\\_CTITLE\\_A1\\_2015&scrId=&seqNo=&lang\\_mode=ko&obj\\_var\\_id=&itm\\_id=&conn\\_path=E1](http://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1PM1502&vw_cd=MT_OTITLE&list_id=MT_CTITLE_A1_MT_CTITLE_A1_2015&scrId=&seqNo=&lang_mode=ko&obj_var_id=&itm_id=&conn_path=E1) (2018/1/26 日閲覧)

<sup>8</sup> 韓国ギャラップ(Gallup)社HP  
[http://blog.daum.net/\\_blog/BlogTypeView.do?blogid=08kF4&articleno=15482814](http://blog.daum.net/_blog/BlogTypeView.do?blogid=08kF4&articleno=15482814)(2018/1/28 閲覧)

かについて考える必要があると思われる。本節では、韓国で議論されているチャペルの本質について述べた。

ウィキペディアではチャペル(chapel)をキリスト教主義学校(ミッション・スクール)の礼拝施設として紹介している。本来、チャペルは礼拝用の建物を意味する用語である。しかし韓国キリスト教大学では、礼拝ではなく、チャペルと呼ばれる。従来、礼拝論的な意味での礼拝(worship)を指すものではなく、より広い意味として用いられる傾向である。

韓国でのキリスト教大学の始まりは1885年延世大学と1886年梨花女子大学が設立された以来である。初め頃の両大学はほぼ毎日チャペルが行われ、学生は義務的に参加した。現在は、週1回のチャペルに義務的に参加している。両大学は歴史的と教育的な視点で韓国の大学教育に多大な影響を与えていた<sup>9</sup>。

その後、諸研究者により学校のチャペルに対する様々な定義が論じられた。一般的に、学校で行われているチャペルがあるかどうかによってキリスト教の学校であるか否かを判断するほど、チャペルは、キリスト教大学の象徴とされており、建学の理念を実現できる場となった。現在も、多くのキリスト教大学におけるチャペルは続いており、学生への影響も非常に大きい。

ジョン・ウンソプ(1991)は、「キリスト教学校の特徴と教会の特徴を同時に持つ。したがって、学校の特徴だけにこだわってはいけない。なぜなら一般的な教会と同様に、キリストの名によって造られたという意味での教会があるからだ」<sup>10</sup>と主張している。

一方、リ・ゲジュン(1997)は、キリスト教学校のチャペルは教会で行われている礼拝とは異なり、学校の状況によって多様であることが望ましく、礼拝の儀式と礼拝の内容を学生の身体的、社会的、情緒的、精神的な属

性を考慮しなければならない。それは非宗教人の学生が多く占められているキリスト教大学の立場としては好ましくないからである。よって、大学で義務的に行われているチャペルはその本質上、指針に沿った礼拝になることはできない。その理由は、今日のような多様化社会でのキリスト教大学のチャペルは、学生をキリスト教に改宗するために焦点を当てるのではなくキリスト教的な人間形成に焦点を合わせることが自然だからである。そういう意味で、教会は神に向けて同じ信仰を告白する信仰共同体であるが、大学は同じ信仰を告白する信仰共同体ではない。したがって、大学のチャペルの内容や進行は礼拝中心とするだけではなく、教育の中心にする必要がある。チャペルは開放的であり、多元的であり、宣教的であると論じている<sup>11</sup>。

また、オ・ヨンゴル(2004)の場合、キリスト教学校の最終的な目的がキリスト教的な人間形成のためだとすれば、それはキリスト教的学校になるかもしれないがキリスト教の学校だとは言えない。キリスト教学校の主な目的は人間本質的な問題、つまり人間の生と死の問題解決のための課題である宣教であり、二次的な目的は国家と社会に必要な人材の育成のためである。学校はそのようなリーダーを養成するためにキリスト教的信仰と人格を訓練し、キリスト教の世界観の視点で社会に貢献できる人材を育つことになる<sup>12</sup>と述べている。

さらに、Youn(2010)によれば、「本学でのチャペルの意義を次のように考えている。キリスト教大学でのチャペルの意義は、教育一環としてのプログラムである。チャペルをキリスト教育の一環として取ることによって、非キリスト教の学生を含むすべての学生を義務的にチャペル時間に参加させることが正当化できるからである」<sup>13</sup>。

以上の結果、各大学の理念と様々な異なる

<sup>9</sup> バク・デソン(1969)『延世大学教史』延世大出版社、p.27引用

<sup>10</sup> ジョン・ウンソプ(1991)『現代キリスト教教育の課題と方法』大韓キリスト教書会 p.207引用

<sup>11</sup> リ・ゲジュン(1997)「キリスト教大学と学園宣教」、展望社 pp.95-96

<sup>12</sup> オ・ヨンゴル(1997)「キリスト教大学における宗教教育に関する研究宇・学生チャペルを中心に」大学と福音11, 1997.12. 63-92

環境の要因により完璧なチャペルのモデルを作成するのは容易ではないことがわかる。ただ、一つ共通して言えるのは、キリスト教が目指すのは学生に肯定的な思考を形成させ、キリスト教的な人生観に立たせ、社会に貢献できるリーダーとしての豊かで幸せな人生を送る事ができるであろう。

各々の置かれた環境であるが多くの良い事例や良いアイデアを導かせ、互いに良いであろうと思う何かを見つけて改善できることを願う。

#### 4. 韓国キリスト教大学の現況

韓国キリスト教学校が建てられたから約130年が経過した。その間に、キリスト教大学は国家と社会に対して強い責任意識と実践志向の人材を育成することを目的にし、世界が目指すべき成長を成し遂げてきた。一方、裏には韓国キリスト教大学における懸念と批判が見えかくれするように見える。

キリスト教学校を象徴するのは、礼拝とキリスト教の科目であり、今まではキリスト教系の学校で宗教教育を実施することについて別の議論がないほど当たり前とされてきた。しかし、2004年大光高校に在学中のカン・イソク(姜義錫 Kang We-suck)<sup>14</sup>の強制チャペル拒否事件で社会的主要議題の一つとして浮上した。キリスト教学校での宗教教育の問題は、学内で時々議論されたことはあったが、カン・イソク事件は、その大胆さと社会的波及により時代の変化を要求する象徴的な出来事となった。

キリスト教大学のチャペルを相手に訴えを起こした事件は、カン・イソクが初めてではなかった。1991年崇実大学に入学したゴ・

ヨンソクが学内での信仰の自由を主張したが、裁判所は、原告敗訴の判定を下した。ゴ・ヨンソクは、最終的にチャペル未履修により卒業できなかった。その後、10年後の2001年に入学したイ・スンウク(25)、キム・ワンジュン(23)は、「チャペル義務履修」規定に反発して、憲法裁判所に憲法訴願を提出した。

彼らは、「現実的に宗教問題まで考慮し、大学を選択できるように保証されていない事を挙げ、キリスト教学校に入学したという理由だけで、非キリスト教人が強制的にチャペルに参加しなければならない規定は、宗教の自由を過度に制限するもの」だと批判した<sup>15</sup>。

また、2011年、梨花女子大学生によるチャペル拒否運動が起きた。義務的なチャペルの履修は、明らかに「信仰の自由と信仰を持たない自由」を侵害していると主張した。これに対して梨花女子大学側は「チャペルは、キリスト教の精神に基づいて共同体意識を育成させるのが梨花女子大学の「主体性」であり、学生本人が入学を希望したということは同時に学則を守るとの意思表示である。いやだったなら入学をしては行けなかったのではないか」との立場を明らかにした<sup>16</sup>。

反チャペル運動は、さらに広がり、インターネットのコミュニティを通して代理出席(2009年当時1万ウォン)を公に求めるなど、未だに(国民日報2016)チャペル出席において、より具体的に商取引する例も現れている<sup>17</sup>。

90年代から広がりを見せていた大学生のチャペルへの苦情、抗議、法廷での争いなどを概観するに当たり韓国のキリスト教精神が衰退していくように思える。だが、同時に、

<sup>15</sup> Christian Today HP  
<http://www.christiantoday.co.kr/news/183158>  
(2018/01/30 閲覧)

<sup>16</sup> Ohmynews HP  
[http://www.ohmynews.com/NWS\\_Web/View\\_at\\_pg.aspx?CNTN\\_CD=A0001546679](http://www.ohmynews.com/NWS_Web/View_at_pg.aspx?CNTN_CD=A0001546679) (2018/01/30 閲覧)

<sup>17</sup> Nocutnews HP  
<http://www.nocutnews.co.kr/news/593742>  
(2018/01/30 閲覧)  
国民日報 HP  
<http://news.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0923489147&code=23111111&cp=nv>

<sup>13</sup> Byeong-Woon Youn (2010) *A Study on an Effective Utilization for the College Chapel* College & Gospel15. pp.123-134

<sup>14</sup> ウィキペディア (Wikipedia) HP  
姜義錫(1986年8月25日～)は、韓国の人権活動家兼市民社会活動家、宗教解放活動家、反戦平和運動家。韓国キリスト系の大光(テグエン)高等学校在学中に礼拝の強要に反対した人物である。ソウル大学校法科大学に進学後退学(2018/1/26日閲覧)

学校側もチャペルを振り返る重要な契機となったのではないかと考えられる事件だ。

## 5. おわりに

本稿では、今後キリスト教大学である本学が進むべき方向を考える機会になるであろうことに意義を置き、キリスト教大学が最も多い韓国キリスト教大学の動向を見てきた。

宗教を含めて歴史や文化などに大きな違いがあるものの、共通する点があることを考察することは、世界における共通の普遍的な価値や思想を求めることになる。

短い分析の中で論じ切れないものがたくさんあるものの一つ言えるのは、キリスト教は「宗教」というよりも一つの「生き方」である。

宗教の理念がどのようなものであれ人間は決して宗教的な背景を越すことはできない。それは信仰上の有無神論を問わず、現実的に存在しているすべての人間の生活は何かしら宗教的欲求と無意識のうちに結合されているからである。特に、このような人間生活と宗教との関係を通察する時、一番旺盛な自我形成期におかれている大学生のための宗教教育の問題は信仰以前の重要な意味を持っていると思われる。

以上のような結果に応じて、次のようないくつかの結論と意見を述べるができる。

- (1) 置かれている環境をもう少し注意深く見て、より明らかで確固たる建学の精神を実現するための方案として学生のチャペルは強化する必要がある。
- (2) 本学で実施する義務礼拝に多くの非キリスト教信者学生(約90%以上)の参加と若干の不満があるにもかかわらず、礼拝への期待と関心は高いと言える。この結果は、今まで伊勢田先生を含む諸先生方々の努力によって報われたものである。したがって、その期待と関心に応えることができる礼拝プログラムとメッセージが必要である。
- (3) 教員又は宗教委員としてなお責任感を感じている。学校は、教員の協力を得ながら、礼拝を通して学生を結びつける礼拝になるように意識を高めることを検討する必要がある。

る。

最後に、キリスト教大学は、学校によって多少の教育方針の違いはあるものの、学生を社会のすべての分野で貢献できる健全なキリスト教のリーダーとして育成することを目的として設立された学校である。したがって、キリスト教の大学がこのような理念と目的を実践するために学生を礼拝へに導くことは、重要な使命であると思う次第である。

## <参考文献>

- ・伊勢田奈緒・中原陽三・山田美代子・崔映・金承子(2016)「礼拝を通しての学び—一年生全員からのアンケートを通して—(研究ノート)」、『キリスト教研究年報』(5), pp.27-37
- ・ウィキペディア(Wikipedia) HP
- ・Byeong-Woon Youn(2010) *A Study on an Effective Utilization for the College Chapel*. College & Gospel15. Pp.123-134
- ・バク・デソン(1969)『延世大学教史』延世大学出版部
- ・リ・ゲジュン(1997)「キリスト教大学と学園宣教」, 展望社 pp.95-96
- ・オ・ヨンゴル(1997)「キリスト教大学における宗教教育に関する研究—学生チャペルを中心に—」, 『大学と福音1』pp.63-92
- ・ジョン・ウンソプ(1991)『現代キリスト教育の課題と方法』, 大韓キリスト教書会

## <参考 URL >

- ・韓国統計庁 HP「人口、人口成長率(2015年)」  
[http://www.index.go.kr/potal/main/EachDtlPageDetail.do?idx\\_cd=1009](http://www.index.go.kr/potal/main/EachDtlPageDetail.do?idx_cd=1009) (2018/1/26 日閲覧)
- ・韓国統計庁 HP「性、年齢別及び宗教別人口調査(2015年)」  
[http://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT\\_1PM1502&vw\\_cd=MT\\_OTITLE&list\\_id=MT\\_CTITLE\\_A1\\_MT\\_CTITLE\\_A1\\_2015&scrId=&seqNo=&lang\\_mode=ko&obj\\_var\\_](http://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1PM1502&vw_cd=MT_OTITLE&list_id=MT_CTITLE_A1_MT_CTITLE_A1_2015&scrId=&seqNo=&lang_mode=ko&obj_var_)

id=&itm\_id=&conn\_path=E1 (2018/1/26  
日閲覧)

- 韓国ギャラップ (Gallup) 社 HP  
[http://blog.daum.net/\\_blog/BlogTypeView.do?blogid=08kF4&article no=15482814](http://blog.daum.net/_blog/BlogTypeView.do?blogid=08kF4&article no=15482814) (2018/1/28 閲覧)
- 国民日報 HP  
<http://news.kmib.co.kr/article/view.asp?ar cid=0923489147&code=23111111&cp=nv>  
(2018/01/30 閲覧)
- 天地日報 HP  
<http://www.newscj.com> (2018/1/26 閲覧)
- Christian Today HP  
<http://www.christiantoday.co.kr/news /183158> (2018/01/30 閲覧)
- Nocutnews HP  
<http://www.nocutnews.co.kr/news/593742>  
(2018/01/30 閲覧)
- Ohmynews HP  
[http://www.ohmynews.com/NWS\\_Web/ View/at\\_pg.aspx?CNTN\\_CD = A0001546679](http://www.ohmynews.com/NWS_Web/ View/at_pg.aspx?CNTN_CD = A0001546679) (2018/01/30 閲覧)

## 礼拝を通しての学び 一年生全員からのアンケートを通して (2) (研究ノート) 2017年度 前期・後期のアンケート結果からわかること

伊勢田奈緒、中原陽三、山田美代子、崔瑛、金承子

### 1. はじめに

前号(キリスト教研究年報第5号)に引き続き、礼拝について学生たちにアンケートを行った。今回は一年間を通しての学生たちの礼拝に対する変化は見られるのか、それとも見られないのかを知りたいと思い、前期、後期は少し、アンケートの項目を変えてみた。この結果を下にして、キリスト教大学としての礼拝について、各学科毎に考察した。尚、今回は、2017年前期と後期の最後の礼拝日に大学一年生全員に実施したアンケートの結果と各教員が担当した学科の学生のアンケートに対する考察を記載している。引き続き、このアンケートを行い、次年度は全学科をとおして検討し、キリスト教大学における礼拝の意義について考察をしたい。

### 2. アンケート調査結果と考察

#### (1) 礼拝アンケート

2017年実施前期 2017. 7. 19

1. あなたはキリスト教信者ですか? はい いいえ

2. あなたは教会に行ったことがありますか?

- ①一度も行ったことがない ②一度だけ行った  
③複数回行った → ( ) 回行ったことがある

3. あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか? はい いいえ

⇒ それは \_\_\_\_\_ の時。

★ \_\_\_\_\_ の中には幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校を入れる。(例: 保育園、高校)

4. あなたはこの大学がキリスト教主義大学であることに対してどのようなイメージをお持ちですか?

キリスト教大学であることを \_\_\_\_\_ だと思う。

★ \_\_\_\_\_ の中にあなたのイメージについてお書きください。

5. 礼拝について今、どんな風に感じていますか?

- ① 良い時間である。 ② 時々、良いと感じる  
③ なんとも感じない。 ④ 義務だから仕方がないと思っている

6. 礼拝の時、自分で、祈ったことがありますか? (たとえば、家族のこと、自分のこと、熊本自身の被災地のこと、自分の国のこと……など)

- ① よくある。 ② 時々、祈る。 ③ 祈ったことがある ④ まったく祈らない
7. 礼拝での讃美歌はどのように感じていますか？  
① 心地よい ② 讃美歌をもってきているが歌えない。  
③ 讃美歌をもってきていないので歌えない ④ 歌いたくない

8. 礼拝での話はどうですか？

- ① 共感する ② 共感することもある ③ まったく聞かない

9. 最後におたずねします。あなたの学科、学年、性別、日本人か留学生かを教えてください。

①学科

②学年

③性別

④国籍 留学生のみ出身国をお書きください ( )

♥ ご協力、ありがとうございました。尚、アンケート結果は分析と共に公表する予定です。

礼拝アンケート

2017年実施後期 2018. 1. 17

1. あなたはキリスト教信者ですか？ はい いいえ
2. あなたは教会に行ったことがありますか？  
①一度も行っていない ②一度だけ行った  
③複数回行った → ( ) 回行ったことがある
3. あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか？ はい いいえ  
⇒ それは \_\_\_\_\_ の時。  
★ \_\_\_\_\_ の中には幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校を入れる。(例：保育園、高校)
4. あなたはこの大学がキリスト教主義大学であることに対してどのようなイメージをお持ちですか？  
キリスト教大学であることを \_\_\_\_\_ だと思う。  
★ \_\_\_\_\_ の中にあなたのイメージについてお書きください。
5. 礼拝について今、どんな風に感じていますか？  
① 良い時間である。 ② 時々、良いと感じる  
③ なんとも感じない。 ④ 義務だから仕方がないと思っている
6. 礼拝の時、自分で、祈ったことがありますか？(たとえば、家族のこと、自分のこと、自然災害にあった人たちのこと、自分の国のこと……など)  
① よくある。 ② 時々、祈る。 ③ 祈ったことがある ④ まったく祈らない



## (1) 人間社会学科 担当 金 承 子

## はじめに

本調査は、静岡英和学院大学キリスト教研究会のプロジェクトにより、1年生を対象に2017年度春学期と秋学期2回にわたって実施された学生礼拝意識調査のものである。下記の分析は本学の人間社会学科だけのアンケートを項目別に統計を出したものである。質問項目は春学期9項目、秋学期10項目からなるが、いずれも1～8項目は同じ内容であり、秋学期に1項目が新しく追加された。

質問項目の中には、調査対象者が自ら記入するタイプの項目（問4、問9-2の①、②）もあった。問4については「どれだけ類似しているか」を計算し、文章の集まりの中から類似した文章を集めていくつかのグループに分類した。問9-2の①、②については、ありのままを伝えようと試みた。

## [1] 回答者の概要

## 1. 回答者

〈表1〉 (単位%)

春学期	総回答者数 107名	有効回答件数 103名 (96.26%)
秋学期	総回答者数 71名	有効回答件数 70名 (98.59%)

\* 有効回答件数(再履修者を除く)

## 2. 性別

〈表2〉 (単位%)

春学期	男性 40名 (38.8%)	女性 63名 (61.2%)	無回答 0名 (0%)
秋学期	男性 29名 (41.4%)	女性 40名 (57.2%)	無回答 1名 (1.4%)

## 3. 国籍

〈表3〉 (単位%)

春学期	日本人 92名 (89.3%)	留学生 11名 (10.7%)
秋学期	日本人 57名 (81.4%)	留学生 13名 (18.6%)

## [2] 礼拝についての意識・関心

## 1. キリスト教信者の有無(問1)

〈表4〉 (単位%)

春学期	はい 4名 (4.1%)	いいえ 97名 (94.0%)	無回答 2名 (1.9%)
秋学期	はい 3名 (4.3%)	いいえ 66名 (94.3%)	無回答 1名 (1.4%)

2. 教会に行った回数 (問 2)

〈表 5〉

(単位%)

春学期		秋学期	
一度も行ったことがない	76名(73.9%)	一度も行ったことがない	39名(55.7%)
一度だけ行った	9名(8.7%)	一度だけ行った	14名(20.0%)
複数回行った	16名(15.5%)	複数回行った	15名(21.4%)
無応答	2名(1.9%)	無応答	2名(2.9%)
合計(N、%)	103名(100%)	合計	70名(100%)

3. 大学入学前のキリスト教主義学校への通学有無 (問 3)

〈表 6〉

(単位%)

春学期		秋学期	
はい(★参照)	12名(11.7%)	はい(★参照)	11名(15.7%)
いいえ	90名(87.4%)	いいえ	57名(81.4%)
無応答	1名(0.9%)	無応答	2名(2.9%)
合計(N、%)	103名(100%)	合計	70名(100%)

\* ★は、幼稚園、保育園、小学校、高校の時の通学の状況を記入してもらった。

4. 本学がキリスト教大学であることに対するイメージ (問 4)

〈表 7〉

(単位%)

春学期		秋学期	
肯定的(誇らしい等)	51名(49.5%)	肯定的(誇らしい等)	44名(62.8%)
普通(何とも思わない等)	18名(17.5%)	普通(何とも思わない等)	6名(8.6%)
否定的イメージ	6名(5.8%)	否定的イメージ	2名(2.9%)
無応答	28名(27.2%)	無応答	18名(25.7%)
合計(N、%)	103名(100%)	合計	70名(100%)

5. 礼拝について今、どんな風を感じているのか (問 5)

〈表 8〉

(単位%)

春学期		秋学期	
良い時間である	18名(17.5%)	良い時間である	17名(24.3%)
時々、良いと感じる	35名(34.0%)	時々、良いと感じる	33名(47.1%)
何とも感じない	24名(23.3%)	何とも感じない	12名(17.2%)
義務だから仕方がないと思っている	25名(24.2%)	義務だから仕方がないと思っている	8名(11.4%)
無応答	1名(1.0%)	無応答	0名(0%)
合計(N、%)	103名(100%)	合計	70名(100%)

## 6. 礼拝の時に自分で祈ったことの有無 (問6)

〈表9〉

(単位%)

春学期		秋学期	
よくある	10名(9.7%)	よくある	7名(10%)
時々、祈る	20名(19.4%)	時々、祈る	20名(28.6%)
祈ったことがある	24名(23.3%)	祈ったことがある	18名(25.7%)
全く祈らない	47名(45.7%)	全く祈らない	23名(32.9%)
無応答	2名(1.9%)	無応答	2名(2.8%)
合計(N、%)	103名(100%)	合計	70名(100%)

## 7. 礼拝での讃美歌に対する感じ (問7)

〈表10〉

(単位%)

春学期		秋学期	
心地よい	25名(24.3%)	心地よい	30名(42.9%)
讃美歌を持ってきているが歌えない	52名(50.5%)	讃美歌を持ってきているが歌えない	23名(32.9%)
讃美歌を持ってきていないので歌えない	9名(8.7%)	讃美歌を持ってきていないので歌えない	10名(14.2%)
歌いたくない	14名(13.6%)	歌いたくない	7名(10.0%)
無応答	3名(2.9%)	無応答	0名(0%)
合計(N、%)	103名(100%)	合計	70名(100%)

## 8. 礼拝での話しについて (問8)

〈表11〉

(単位%)

春学期		秋学期	
共感する	11名(10.7%)	共感する	10名(14.3%)
共感することもある	75名(72.8%)	共感することもある	58名(82.9%)
まったく聞かない	16名(15.5%)	まったく聞かない	2名(2.8%)
無応答	1名(1.0%)	無応答	0名(0%)
合計(N、%)	103名(100%)	合計	70名(100%)

## 9. 入学前に比べ礼拝に対する印象は変わったのか (問9-1)

〈表12〉

(単位%)

春学期	秋学期 (* 新しく質問項目追加)	
* 質問項目なし	入学当初に比べると、礼拝に対する印象が変わった	22名(31.4%)
	入学当初に比べると、礼拝に対する印象は変わっていない	20名(28.6%)
	よく分からない	28名(40.0%)
	無応答	0名(0%)
	合計(N、%)	70名(100%)

10. 問 9-1 で、「印象が変わった」に対する「以前」、「現在」、「その理由」への 返答 (問 9-2)

〈表 13〉

\* 有効回答件数 (19)

秋学期 (* 新しく質問項目追加)		
以前	現在	その理由
何かやる時、まじめに取り組んでいなかった。	大学と一緒にいられるのは心強い。	毎週チャペルの礼拝に参加し、様々な大事なお話を聞き、さらに、先生たちの良いアドバイスを受けられるので大変助かるからである。
しなくても良い	皆のため或いは良い事のためやっている	以前より詳しく分かってきたので
宗教を強制されるのだ	自分の心を変え、良い方向へ行く	キリストの教えが人間にとって重要な事を示していると理解しているから
もっと堅いもの	やわらかい	リラックスできたこと
無駄	有意義	自分と周りを見つめ直された
何	分からない	意味わからないから
大切	良い時間	為になるから
面倒くさい	心が落ち着く良い時間	初めの頃より共感できる話が多いから
ただ祈るもの	為になるもの	気持ち
何のための時間か分からない	自分と向き合う大切な時間	礼拝というものの理解
つまらない	好き	礼拝の話が勉強になる
洗脳	洗脳ではない	学校に通ったから
興味ない	少し興味なる	時間
どうでもよいこと	良いもの	無応答
つまらないこと	落ち着く	無応答
固く形式的なもの	そこまですでもない	無応答
変な時間	充実した時間	無応答
無応答	無応答	キリスト教のことを少し分かったから
良く分からないもの	忌々しい行事	義務づけられている礼拝

## おわりに

本報告は本学の人間社会学科1年生を対象に2017年度に実施された礼拝意識調査のアンケートをまとめたものである。学生の礼拝の意識そのものを把握し、これに関連した要因を発見することに大きな意義を置く。

〈表4〉に示しているように、非キリスト教信者の割合は約94%となり、キリスト教信者の割合はわずかに約4%となる。このようにほとんどの非キリスト教学生が本学に入ってきたと見てよいでしょう。

しかし、〈表7〉に示しているようにキリスト教大学である本学に対するイメージが春学期と秋学期共に大変肯定的であることが分かる。例えば、「まじめな大学」、「自分の生活にとっても良い影響になる大学」、「優しくて親切な大学」、「素晴らしいこと」、「聖なる場所」、「神聖的、清楚な大学」、「清らかな大学」などの言葉で表現されており、大変喜ばしいことである。その以外にも多くの類似したコメントが記入された。普通の割合をそのグループに入れると約60%以上の学生がキリスト教大学である本学に良いイメージを持っていると言える。〈表7〉は、「どれだけ類似しているか」を計算し、文章の集まりの中から類似した文章を集めていくつかのグループに分類した。

礼拝に対する学生の関心度は〈表〉8～11に示している。その結果を「肯定的姿勢」と「否定的姿勢」二つのみ区分するなら、「肯定的姿勢」が高いことの希望をうかがうことができる。

また、秋学期に新しく追加された「礼拝時間が学生に及ぼした影響」（設問項目9-2項）の結果は、まさに、「キリスト教大学の建学の精神を学生たちに直接、吹き込む場が先ず、礼拝である」\*1(伊勢田他2016, p.27)と論じていることに通じるものがある。

以上のような調査結果に応じて、次のように結論づけることができる。

本大学で実施する義務礼拝に多くの非キリスト教信者学生の参加と少数の不満があるにもかかわらず、礼拝への期待と関心は高いと言える。この結果は、今まで伊勢田先生を含む学校全体の努力によって報われたものであると判断される。

したがって、その期待と関心に答えることができる礼拝プログラムとメッセージができるようにさらなる関心が必要であると考えられる。

---

\*1 出典、伊勢田奈緒・中原陽三・山田美代子・崔映・金承子「礼拝を通しての学び——一年生全員からのアンケートを通して——(研究ノート)」『キリスト教研究年報』第5号、2016年3月、27～37ページ。

(1) 人間社会学科

担当 金 承子

問1. あなたはキリスト教信者ですか	No.	問1	問2	問2の2	問3	問3の2	問3の2その他	問4	問5	問6	問7	問8	問9① ① 学科	問9② ② 学年	問9③ ③ 性別	問9④ ④ 国籍	問9⑤ ⑤ その2	
問1   はい→1   いいえ→2	仮1	2	1		2				4	3	2	2	3	1	2			
問2. あなたは教会に行ったことがありますか?	仮2	2	1		2			いいんじゃないか	2	2	2	2	4	1	2			
問2   ①一度も行ったことがない→1	仮3	2	2		2			外国風	1	2	3	2	2	1	1		日本	
問2   ②一度だけ行った→2   ③複数回行った→3	仮4	2	2		2			ズテキ	4	2	2	2	1	1	1			
問2の2. 複数回行った事がある場合の回数	1	2	1		2			心地よくなった	2	4	1	3	1	1	2		中国	
問2の2   記載があった回数をそのまま数字で記入	2	2	1		2			すごいこと	4	4	2	2	1	1	1			
問3. あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか?	3	2	1		2				2	3	1	2	1	1	1			
問3   はい→1   いいえ→2	4	2	1		2				4	3	2	2	1	1	1			
問3の2. はいの場合、どの時か(複数回答可(2と5など))	5	2	1		2			神	4	4	4	3	1	1	1		日本	
問3の2   幼稚園→1   保育園→2   小学校→3	6	2	2		2			いいこと	3	4	2	2	1	1	1			
問3の2   中学校→4   高校→5   その他の回答→6	7	2	1		2				3	4	2	1	1	1	1			
問3の2その他   その他の回答を、そのまま記入	8	2	1		2				4	4	4	3	1	1	1			
問4. 本学がキリスト教大学であることに対するイメージ	9	2	1		2			良いこと	3	4	2	3	1	1	1			
問4   記入された文字列をそのまま記入	10	2	1		2			良い	2	3	2	2	1	1	1		ベトナム	
問5. 礼拝について、どんな風に感じていますか?	11	2	1		2			はじめてだった	4	4	1	2	1	1	1		中国	
問5   ①～④に応じて1～4を記入	12	2	1		2			興味が無い	4	4	4	3	1	1	1			
問6. 礼拝時に自分で折ったことの有無	13	2	1		2			嫌い	4	4	4	3	1	1	1			
問6   ①～④に応じて1～4を記入	14	1	3	なん かいも	2			わたしもキリスト教 なのでいい	2	1		1	1	1	2		スリラン カ	
問7. 礼拝での賛美歌に対する感じ	15	2	1		2				3	4			1	1	1			
問7   ①～④に応じて1～4を記入	16	2	3	2	2				3	3	2	2	1	1	1			
問8. 礼拝での話について	17	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1			
問8   ①～③に応じて1～3を記入	18	2	3	4	2	仏教		きらい	4	3	4	3	1	1	1		ベトナム	
問9①学科	19	2	1		2				2	3	1	1	1	1	1			
現代コミュニケーション学科→1   食物学科→2	20	2	1		2			他人にやさしく大事 な心がある	2	2	1	2	1	1	1		ミヤ ン マ ー	
コミュニティ福祉学科→3   人間社会学科→4	21	2	1		2				2	3	3	2	1	1	1			
(短大、四大毎に、五十音順)	22	2	1		2			とくにどうも思わな い	4	4	3	3	1	1	1			
問9②学年	23	2	1		2			めずらしい大学	3	4	4	2	1	1	1			
問9②学年   1年→1   2年→2   3年→3   4年→4	24	2	3	10回 以上	2			良いこと	3	3	2	2	1	1	1			
問9③性別	25	2	1		2			神聖	4	2	2	2	1	1	1			
問9③性別   女性→1   男性→2 (五十音順)	26	2	2		2				4	3	2	2	1	1	1			
問9④国籍	27	3	3	2	2			めずらしいと	4	4	4	3	1	1	1			
問9④国籍   記載のまま記入	28	2	1		2			いいこと	3	4	2	2	1	1	1			
問9④その2   出身国(留学生のみ)	29	2	1		2				3	4	1	2	1	1	1			
問9④その2   記載のまま記入	30	2	1		2			何も思わない	3	4	2	2	1	1	1			
注1. アンケートの通り番号について	31	2	1		2			不思議	4	4	2	2	1	1	1			
各教員へ担当学科のアンケートが配布されている。入力前にその	32	2	1		2				2	3	2	2	1	1	1			
アンケートへ通し番号を振っておく(アンケートの右上隅に手書き)	33	2	1		2				3	4	1	2	1	1	1			
注2. 仮1～仮4は実際に回答されたアンケート用紙だが、各教員へ	34	2	1		2			何も思わない	3	2	3	2	1	1	1			
配布されたアンケートには入っていない。このうちの担当学科学生	35	2	1		2			キリスト教が一番	3	3	3	2	1	1	1			
のアンケート(1枚)については、通し番号を最後として入力(コ	36	2	1		2				4	4	2	2	1	1	1			
ピー) するようお願いいたします。	37	2	1		2				4	4	3	3	1	1	1			
	38	2	1		2			いい	2	1	2	1	1	1	2		ベトナム	
	39	2	1		2				4	4	4	2	1	1	1			
	40	2	1		2			誇り	4	4	3	3	1	1	1			
	41	2	3		2				4	4	2	2	1	1	1		ネパール	
	42	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1		ベトナム	
	43	2	3	2	2				3	3	2	2	1	1	1			
	44	2	1		2			良いと	4	3	2	2	1	1	1			
	45	1	1		2				2	1	2	1	1	1			ベトナム インドネ シア	
	46	2	3	12	2			良い大学	1	1	2	2	1	1	1			
	47	1	1		2								1					
	48	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1			
	49	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1			
	50	1	2		2				3	4	2	2	1	1	1			
	51	2	3	14	1		静岡 英和 女学 院中 学校 、高 等学 校	キリスト教の信者が 多い学校	1	3	1	2	1	1	1			
	52	2	1		2				4	4	3	2	1	1	1			
	53	2	1		2			普通	4	4	3	2	1	1	1			
	54	2	2		2				3	3	2	2	1	1	1			
	55	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1			
	56	2	2		2				2	3	3	2	1	1	1			
	57	2	1		2			特になんとも思わな い	4	4	4	3	1	1	1			
	58	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1			
	59	2	1		2				2	4	2	2	1	1	1			
	60	2	2		2				3	4	4	3	1	1	1			
	61	2	1		2			よく分かる	1	3	1	1	1	1	1			
	62	2	3	3	1		高校 生の とき	いいこと	1	2	1	2	1	2	2		ネパール	
	63	2	1		1		高校	イエス	2	3	1	2	1	2	2		インドネ シア	
	64	2	1		1				4	2	4	3	1	2				
	65	2	1		1				2	2	1	1	1	2	1		ベトナム	
	66	2	1		1				2	2	1	1	1	2	1		ベトナム	

(2) コミュニティ福祉学科 (2017年1月18日(水)実施) 結果へのコメント 担当 中原 陽三

2016年度宗教委員会アンケート(後期の2017年1月18日(水)実施)への回答(コミュニティ福祉学科1年生分と2年生以上分)に対する中原コメント(回答から読み取った特徴についてのざっとしたコメント)を、次の1～15に示す。なお、2016年度前期(2016年7月20日(水))に実施した同様のアンケートへの回答(コミュニティ福祉学科1年生分)に対する中原コメント(静岡英和学院大学キリスト教研究年報第五号)と並列的に記す；

1. コミュニティ福祉学科2016年度1年生中の49名(女性33名(記名32名)、男性16名(記名14名)、同2年生中の3名(女性1名(記名)、男性2名)、ならびに、同4年生中の2名(女性1名、男性1名)の回答(回答者総数54名(記名47名、無記名7名))。記名は今回のアンケート実施時に、回収方法を原因として他学科を含めた全体へ指示された。アンケートに記名欄はない(裏面に記入した者2名))
2. キリスト者1名(女性(1年))。未回答1名(女性(1年))
3. 留学生は1名(出身国の回答はないが、記名から留学生と判明した者1名。出身国の記名が外国である者1名(しかし、記名から留学生ではないことが判明))
4. 教会に行っていない者37名(1年33名、2年2名、4年2名) 1度だけ行った者10名(1年9名、2年1名) 複数回行った者7名(すべて1年生。「たくさん」1名、「何回も(小学生の時から)」1名、「中一から高三まで週1」1名、「3回」2名(内1名は、アンケートの2番に対して①～③には○をしていないが、その次の( )内に3と記入している)、「2回」1名、無回答1名)
5. キリスト教主義の学校へ通った者8名(1年7名(中高2名、高校1名、幼稚園1名、保育園2名、「『はい、いいえ』には無回答だが、その次の「～の時」の～に高校名を記入」1名)、4年1名(幼稚園))。通わなかった者46名(1年42名(1名のキリスト者(問1への回答による)を含む)、2年3名、4年1名)
6. 問4への回答者43名(1年39名(記名36名、無記名3名)、2年3名(記名1名、無記名2名)、4年1名(無記名))、未回答11名(1年10名、4年1名)(未回答者のうち9名は、キリスト教主義の学校へ通っていない者(すべて1年)で、さらに、このうち教会に1回行った者1名以外の8名は、教会に行っていない)。

問4への回答の内訳は次のとおり；

- a. 肯定的(集計時出現順(重複回答もそれぞれ記載)：優しい、ほこり、すごい、すばらしい、すてき、すてき、良いこと、いい感じ、誇り、誇りに、いいこと、良いこと・誇り、良い、誇り、おもしろい、すごい、誇り、良いこと、きょうでめずらしいこと、思想がはっきりしていて良い、誇り、すごい、誇りである)23名(1年20名(記名19名、無記名1名)、2年2名(記名1名、無記名1名)、4年1名(無記名))
  - i. 23名の内訳：「教会に行っても、キリスト教主義学校に通ったこともない」15名(1年13名(記名)、2年1名(無記名)、4年1名(無記名))、「教会に行ったことがあるか、キリスト教主義学校に通ったことがある者」8名(1年7名(記名6名、無記名1名)、2年1名(記名))。なおこの8名は、問4の回答者43名中なら19名(全回答者54名中なら22名)である。また23名のもうひとつの内訳として「教会に行っていないか、キリスト教主義学校に通ったことがない者」21名、「教会に行ったことがあり、かつ、キリスト教主義学校に通ったことがある者」2名である。
- b. 中間あるいは不明(集計時出現順：(特には)別に他の大学とかわらない、めっ

たにないこと、少し特種、はじめ(注:意味不明。辱め? はずかしい?)、他の学校では感じられない特別な大学、何とも思わない、ふつう、悪いとは思わない、悪くないこと、特に特別には感じない、きびしい所、どうでもいいこと、特別な感じ、まあまあ、何とも思わない、自分とは違う別の考え方、どうも思わない、思想がはっきりしている、普通) 19名 (1年18名(記名16名、無記名2名)、2年1名(無記名))

i. 「悪いとは思わない」(高校はキリスト教主義)、「何とも思わない」(幼稚園はキリスト教主義)の2名(1年(記名))は、教会に一度も行ったことがない。この2名以外(17名)はキリスト教主義学校に通ったことがない者で、内訳は、教会に一度も行ったことがない8名(1年7名(記名5名、無記名2名)、2年1名(無記名))、一度だけ行った6名(1年)、複数回行った3名(1年。内訳:何回も、3回、2回、各1名)。

c. 否定的(怖い) 1名(1年(記名))

i. 1名は、キリスト教主義の学科へ通っていない者で、かつ、教会に行ったことがない人

7. 問5 (54名/54名 回答)

a. 1. 13名(9名は問4に肯定的回答(内訳:「教会に行ったことがあり、かつ、キリスト教主義学校に通ったことがある者」2名、「教会に一度だけ行った。キリスト教主義学校に通ったことはない」3名、「教会に行ったことも、キリスト教主義学校に通ったこともない」4名)、1名は問4に中間あるいは不明の回答、3名は問4に無回答(内1名は「教会に行ったことがあり、かつ、キリスト教主義学校に通ったことがある者」))、2. 12名(内訳:問4に肯定的回答6名、問4に中間あるいは不明の回答5名、問4に無回答1名。別の内訳:「教会に行ったことがある」2名、「キリスト教主義学校に通ったことがある」2名、「教会に行ったことも、キリスト教主義学校に通ったこともない」8名)、3. 20名(4年1名、1年19名)、4. 9名(全て1年) 5. 空白 0

8. 問6 (54名/54名 回答)

a. 1. 7名(内訳:問4に肯定的回答5名(1年4名、2年1名)、問4に中間あるいは不明の回答1名(1年)、問4に無回答1名(1年))、2. 14名(内訳:問4に肯定的回答7名(1年6名、4年1名)、問4に中間あるいは不明の回答5名(1年4名、2年1名)、問4に無回答2名(1年))、3. 13名(内訳:問4に肯定的回答6名(1年5名、2年1名)、問4に中間あるいは不明の回答8名(1年)、問4に無回答2名(1年))、4. 20名(内訳:問4へ肯定的5名(1年)、中間8名(1年)、否定的1名(1年)、空白6名(1年5名、4年1名))、5. 空白 0名

9. 問7 (54名/54名 回答)

a. 1. 20名(内訳:問4へ肯定的8名、中間6名、否定的0名、空白6名)、  
2. 8名(内訳:問4へ肯定的4名、中間2名、否定的0名、空白2名)、  
3. 16名(内訳:問4へ肯定的8名、中間5名、否定的1名、空白2名)、  
4. 9名(内訳:問4へ肯定的2名、中間6名、否定的0名、空白1名)、  
5. ①~④のいずれでもない(歌うことは嫌いじゃないから歌っている) 1名

10. 問8 (54名/54名 回答)

a. 1. 9名(内訳:問4へ肯定的5名、中間2名、否定的0名、空白2名)、  
2. 39名(内訳:問4へ肯定的17名、中間15名、否定的0名、空白7名)、

3. 5名（内訳：問4へ肯定的1名、中間2名、否定的1名、空白1名）、

4. 空白1名（問4へも空白）

11. 問4へ回答した43名（1年39名（記名36名、無記名3名）、2年3名（記名1名、無記名2名）、4年1名（無記名））のうち、「教会へもいったことがなく、キリスト教主義の学校へも通っていない者」は24名（内訳は肯定的回答15名（1年13名（記名）、2年1名（無記名）、4年1名（無記名））、中間あるいは不明回答8名（1年7名（記名5名、無記名2名）、2年1名（無記名））、否定的回答1名（1年（無記名）））である（上記6のa～cより）。

1年生のみ（アンケート回答者49名）については、問4へ回答した39名のうち、「教会へもいったことがなく、キリスト教主義の学校へも通っていない者」は21名（上記6のa～cより13+7+1）であり、内訳は、肯定的回答した者は13名、中間あるいは不明は7名、否定的回答は1名。

12. 問4へ回答した43名（1年39名（記名36名、無記名3名）、2年3名（記名1名、無記名2名）、4年1名（無記名））の半分以上（23名（1年20名（記名19名、無記名1名）、2年2名（記名1名、無記名1名）、4年1名（無記名）））が、キリスト教大学であることに對して肯定的なイメージを持っている（上記6aより）。この43名中の、「教会へもいったことがなく、キリスト教主義の学校へも通っていない者」24名（内訳は、肯定的回答15名（1年13名（記名）、2年1名（無記名）、4年1名（無記名））、中間あるいは不明の回答8名（1年7名（記名5名、無記名2名）、2年1名（無記名））、否定的回答1名（1年（記名）））についても、半分以上（8分の5）の15名が肯定的なイメージを持っている（上記11より）。
13. アンケート回答者54名中、48名は、礼拝でのお話に共感あるいは共感することもあると回答しており（上記10）、アンケート回答者の88%以上である。
14. アンケート回答者54名中、礼拝での賛美歌について、歌いたくないと答えたか未回答の者は9名であり（未回答0名。上記9参照）、約83%の45名もの者が、「歌いたくないわけではない」ことがわかる。
15. アンケート回答者54名中、礼拝のとき自分で祈ることにつき、「まったく祈らないか、この回答に未回答の者」は、20名であり（上記8）、6割以上にあたる34名の者が、「自分で全く祈らないわけではない」ことがわかる

以上

コミュニティ福祉学科 (2017年7月19日実施) 結果へのコメント 担当 中原 陽三

2017年度宗教委員会アンケート(前期の2017年7月19日(水)実施)への回答(コミュニティ福祉学科1年生分と2年生以上分(本回では3,4年生分はなかった))に対する中原コメント(回答から読み取った特徴についてのざっとしたコメント)を、次の1~15に示す。なお、2016年度前期(2016年7月20日(水))に実施した同様のアンケートへの回答(コミュニティ福祉学科1年生分)に対する中原コメント(静岡英和学院大学キリスト教研究年報第五号)と並列的に記す;

1. コミュニティ福祉学科2017年度1年生中の34名(女性24名、男性9名、性別不明1名)、同2年生中の7名(女性4名、男性3名)の回答(回答者総数41名(女性28名、男性12名、不明1名))。
2. キリスト者0名
3. 留学生1名(1年、女性)
4. 教会に行っていない者24名(1年20名(女性13名、男性6名、性別不明1名)、2年4名(女性3名、男性1名)) 1度だけ行った者6名(1年5名(女性3名、男性2名)、2年1名(女性)) 複数回行った者10名(問2に3の回答6名(1年5名(女性4名(問2の2:いっぱい、2、空欄、空欄)、男性1名(問2の2:2))),2年1名(男性(問2の2:3))),問2に回答はないが、問2の2に記入がある者4名(すべて1年女性(問2の2:3、「3,4」、2、3)) 不明1名(問2と問2の2に無回答:2年男性)
5. キリスト教主義の学校へ通った者8名(すべて1年(幼稚園2名(女性)、高校6名(女性4名、男性2名))。通わなかった者33名(1年26名(女性7名、男性18名、性別不明1名))
6. 問4への回答者23名(1年19名、2年4名)、未回答18名(1年15名、2年3名)(未回答者のうち14名は、キリスト教主義の学校へ通っていない者(1年11名、2年3名)で、さらに、このうち教会に複数回行った者2名以外の12名は、教会に行っていない)。問4への回答の内訳は次のとおり;
  - a. 肯定的(集計時出現順(重複回答もそれぞれ記載):すてき、良い学びの場、良い学びの場、良いこと、すばらしいこと、いいこと、誇り、メリット、いいこと、すてき、すばらしい大学、福祉を目指す私ではとてもいい習い場、誇り、まじめ、おもしろい、良いこと、礼拝という機会がなかなかないのでいい経験)17名(1年15名、2年2名)
    - i. 17名の内訳:「教会に行っても、キリスト教主義学校に通ったこともない」6名(1年5名、2年1名)、「教会に行ったことがあるか、キリスト教主義学校に通ったことがある者」11名(すべて教会に行ったことがあるもの。内訳は1年10名、2年1名)。なおこの11名は、問4の回答者23名中なら13名(全回答者41名中なら19名)である。また17名のもうひとつの内訳として「教会に行っていないか、キリスト教主義学校に通ったことがない者」13名、「教会に行ったことがあり、かつ、キリスト教主義学校に通ったことがある者」4名である。
  - b. 中間あるいは不明(集計時出現順:英和の特徴、めずらしい、なんとも思わない、一つの特徴、特に何も、何も)6名(1年4名、2年2名)
    - i. すべてキリスト教主義学校に通ったことがない者で、内訳は、教会に一度も行っていない4名(1年3名、2年1名)、複数回(「いっぱい」と回答)行った1名(1年)、不明1名(2年)
  - c. 否定的0名

7. 問5 (41名/41名 回答)
- a. 1. 15名
    - i. 10名は問4に肯定的回答
      - 1. 「教会に行ったことがある」7名
        - 1. 「キリスト教主義学校に通ったことがある者」3名、
        - 2. 「キリスト教主義学校に通ったことがない者」4名)、
      - 2. 「教会に行ったことがない」3名 (いずれもキリスト教学校にも通ったことはない)、
    - ii. 2名は問4に中間あるいは不明の回答 (いずれも「キリスト教主義学校に通ったことがない」が、1名は教会に複数回行ったことがある)、
    - iii. 3名は問4に無回答 (内1名は「教会に行ったことがあり、かつ、キリスト教主義学校に通ったことがある者」)、
  - 2. 10名
    - i. 内訳1
      - 1. 問4に肯定的回答4名 (この内「教会に行ったことがある」3名)
      - 2. 問4に中間あるいは不明の回答1名 (この内「教会に行ったことがある」0名)
      - 3. 問4に無回答5名 (この内「教会に行ったことがある」2名)
    - ii. 別の内訳
      - 1. 「教会に行ったことがある」5名
        - 1. 「キリスト教主義学校に通ったことがある」2名、
        - 2. 「キリスト教主義学校に通ったことがない」3名、
      - 2. 「教会に行ったことがない」5名 (すべて「キリスト教主義学校に通ったことがない」)、
  - 3. 11名 (1年8名、2年3名)
  - 4. 5名 (1年3名、2年2名)
8. 問6 (41名/41名 回答)
- a. 1. 3名 (内訳:問4に肯定的回答3名 (1年3名)、
  - 2. 13名 (内訳:問4に肯定的回答6名 (1年5名、2年1名)、問4に中間あるいは不明の回答2名 (1年2名)、問4に無回答5名 (1年5名)
  - 3. 14名 (内訳:問4に肯定的回答5名 (1年5名)、問4に中間あるいは不明の回答2名 (1年2名)、問4に無回答7名 (1年4名、2年3名))、
  - 4. 11名 (内訳:問4へ肯定的3名 (1年2名、2年1名)、中間2名 (2年2名)、問4に無回答6名 (1年6名))
9. 問7 (41名/41名 回答)
- a. 1. 15名 (内訳:問4へ肯定的11名、中間1名、否定的0名、空白3名)
  - 2. 18名 (内訳:問4へ肯定的4名、中間3名、否定的0名、空白11名)
  - 3. 4名 (内訳:問4へ肯定的1名、中間0名、否定的0名、空白3名)
  - 4. 4名 (内訳:問4へ肯定的1名、中間2名、否定的0名、空白1名)
10. 問8 (41名/41名 回答)
- a. 1. 8名 (内訳:問4へ肯定的6名、中間1名、否定的0名、空白1名)
  - 2. 27名 (内訳:問4へ肯定的10名、中間3名、否定的0名、空白14名)
  - 3. 6名 (内訳:問4へ肯定的1名、中間2名、否定的0名、空白3名)

11. 問4へ回答した23名(1年19名、2年4名)のうち、「教会へもいったことがなく、キリスト教主義の学校へも通っていない者」は10名(内訳は肯定的回答6名(1年5名、2年1名)、中間あるいは不明回答4名(1年3名、2年1名)、否定的回答0名)である(上記6のa～cより)。  
1年生のみ(アンケート回答者34名)については、問4へ回答した19名のうち、「教会へもいったことがなく、キリスト教主義の学校へも通っていない者」は8名(上記6のa～cより5+3+0)であり、内訳は、肯定的回答した者は5名、中間あるいは不明は3名、否定的回答は0名。
12. 問4へ回答した23名(1年19名、2年4名)の半分以上の17名(1年15名、2年2名)が、キリスト教大学であることに対して肯定的なイメージを持っている(上記6aより)。この23名中の、「教会へもいったことがなく、キリスト教主義の学校へも通っていない者」10名(内訳は肯定的回答6名(1年5名、2年1名)、中間あるいは不明回答4名(1年3名、2年1名)、否定的回答0名)についても、半分以上(6割)の6名が肯定的なイメージを持っている(上記11より)。
13. アンケート回答者41名中、35名は、礼拝でのお話に共感あるいは共感することもあると回答しており(上記10)、アンケート回答者の85.4%(小数第2位で四捨五入)である。
14. アンケート回答者41名中、礼拝での賛美歌について、歌いたくないと答えたか未回答の者は4名であり(未回答0名。上記9参照)、90.2%(小数第2位で四捨五入)の37名ものが、「歌いたくないわけではない」ことがわかる。
15. アンケート回答者41名中、礼拝のとき自分で祈ることにつき、「まったく祈らないか、この回答に未回答の者」は、11名であり(未回答0名。上記8参照)、73.2%(小数第2位で四捨五入)にあたる30名の者が、「自分で全く祈らないわけではない」ことがわかる。

#### 属性未記入者のアンケート(2017年7月19日実施)結果へのコメント

アンケートは、大学と短大部の4学科についてそれぞれにひとつずつ用意された回収袋に回収した。複数の回収担当者(教員数名、上級生数名、そのときに頼んだ回答者の学生数名)による、チャペル後の短時間での回収となり、学生たちが出口に殺到する中で、回収袋とは別に回収し、あとで回収袋に入れる場合もあった。また、回収時に学生の所属学科を確認して受け取ることができていない場合もあった。

このような回収であったため、属性が未記入である場合に、学科を特定することはできない。回収方法について、工夫が必要である。また、属性の記入しやすさの工夫も有効と思われる。このことにつき、2017年7月19日のアンケート実施のあとで、宗教委員会で検討され、属性の記入しやすさについては2018年1月17日実施のアンケートから改善されている。

以 上

## コミュニティ福祉学科1年生等のアンケート（2018年1月17日実施）結果へのコメント

2017年度宗教委員会アンケート（後期の2018年1月17日（水）実施）への回答（コミュニティ福祉学科1年生分と2年生以上分（今回でも前回に引き続き3，4年生分はなかった））に対する中原コメント（回答から読み取った特徴についてのざっとしたコメント）を、2016年度前期（2016年7月20日（水））に実施した同様のアンケートへの回答（コミュニティ福祉学科1年生分）に対する中原コメント（静岡英和学院大学キリスト教研究年報第五号）と並列的に記すのは、別の機会とし、ここでは簡単なコメントに留める。

なお、このとき実施したアンケート内容に以下の(1)~(3)の変更点がある；

- (1) 問9が問10となり、学科、学年、性別の回答方法が、記入から選択（自ら記入するのではなく、記載されているものから選択）になったこと
  - (2) 問9-1と問9-2が新規追加されたこと
  - (3) 問6の質問文の一部変更（「熊本自身の被災地のこと」→「自然災害にあった人たちのこと」）
- また、回収したアンケートに学科の属性が未記入の者が1名おり、回収方法からは学科を正確に特定することは難しく、この1名を除外した26名に対してコメントする（ただし全体の集計表にはこの1名を含めて記載しておく）。

### <アンケート結果への簡単なコメント>

問6の祈りに対する回答と問4の「この大学がキリスト教主義大学であることに対するイメージ」への回答に相関があると思われる。この印象は、詳細な検討は抜きとして、これまでのアンケートでも感じたことであったと思う。

No.15（1年、女性）は、問6に対して、祈ることがよくあると回答し、問4に対して「素晴らしいこと」と回答しており、相関を示唆する一例である。また、今回新たに加えた問9-1と問9-2に対して、No.15は、「入学当初に比べると、礼拝に対する印象が変わった」とし、①印象が変わったこと：以前は（暇）だと思っていたが、今は（素晴らしいこと）だと思う。②その理由は、（いのること）だと思う、と回答している（①は選択、②は（ ）内に記入で回答）。この学生の感じ方の変化とその理由として自ら思う内容は、この相関とその理由を示唆する。主に向き合って、あるいは、向き合おうとして祈るとき、主は豊かに臨んで下さったのだと思う。そしてそれはみんなに対してであり、それが相関として表れているのであろう。

以 上

(2)の1 コミュニティ福祉学科 (2017年1月18日(水)実施)

担当 中原 陽三

問1. あなたはキリスト教信者ですか	No.	問1	問2	問2の2	問3	問3の2	問3の2その他	問4	問5	問6	問7	問8	問9①学科	問9②学年	問9③性別	問9④国籍	問9⑤その他
問1 はい→1 いいえ→2	1	2	2		2			(特には)別に他の大学とかかわらない	4	4	4	2	3	1	2		日本人
問2. あなたは教会に行ったりことがありますか?	2	1	2		2			めったにないこと	1	1	1	1	1	1	1		
問2 ①一度も行ったことがない→1	3	2	1		2			少し特種	2	2	1	2	3	1	1		
②一度だけ行った→2 ③複数回行った→3	4	2		3	2			ほかじめ	2	2	3	1	3	1	2		ブルガリア
問2の2. 複数回行った事がある場合の回数	5	2	1		2			優しい	3	4	2	2	3	1	1		
問2の2 記載があった回数をそのまま数字で記入	6	2	1		2				3	2	2	1	3	1	2		
問3. あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか?	7	2	3	2	2			他の学校では感じられない特別な大学	3	2	3	2	3	1	1		
問3 はい→1 いいえ→2	8	2	2		2			ほこり	1	2	1	2	3	1	1		
問3の2. はいの場合、どの時か(複数回答可(2と5など))	9	2	1		2				1	4	1	2	3	1	1		
問3の2 幼稚園→1 保育園→2 小学校→3	10	2	3	3	1	6	中、高	すごい	1	1	1	1	3	1	1		
中学校→4 高校→5 その他の回答→6	11	2	1		2				1	3	1	2	3	1	2		
問3の2その他	12	2	1		1	2		すばらしい	2	3	3	2	3	1	1		
問4. 本学がキリスト教大学であることに対するイメージ	13	2	3		中一から高三まで週1	1	6	中一から高三		1	4	1	2	3	1	1	
問4 記入された文字列をそのまま記入	14	2	1	0	2					3	1	1	3	1	2		
問5. 礼拝について今、どんな風に感じていますか?	15	2	3		1	2		すてき	1	1	1	1	3	1	1		
問5 ①~④に応じて1~4を記入	16	2	1		2			何とも思わない	3	3	3	2	3	1	2		
問6. 礼拝時に自分で折ったことの有無	17	2	1		2			すてき	1	1	1	1	3	1	1		
問6 ①~④に応じて1~4を記入	18	2	1		2			良いこと	2	2	3	2	3	1	1		
問7. 礼拝での賛美歌に対する感じ	19	2	2		2			ふつう	4	4	2	3	3	1	2		
問7 ①~④に応じて1~4を記入	20	2	1		2			いい感じ	3	3	2	2	3	1	2		
問8. 礼拝での話について	21	2	1		1	5		悪いとは思わない	3	3	1	2	3	1	2		
問8 ①~③に応じて1~3を記入	22	2	1		2			誇り	1	3	4	3	2	3	1	1	日本人
問9①学科	23	2	1		2			誇りに	1	2	1	1	3	1	2		
現代コミュニケーション学科→1 食物学科→2	24	2	1		2			いいこと	2	1	2	2	3	1	1		
コミュニティ福祉学科→3 人間社会学科→4	25	2	2		2			良いこと・誇り	1	3	1	2	3	1	1		
(短大、四大毎に、五十音順)	26	2	1		2			悪くないこと	2	3	1	2	3	1	1		
問9②学年	27	2	2		2			特に特別には感じない	3	4	2	2	3	1	1		
問9②学年 1年→1 2年→2 3年→3 4年→4	28	2	1		2			きびしい所	4	4	3	2	3	1	2		
問9③性別	29	2	1		2			良い	1	2	1	2	3	1	1		
問9③性別 女性→1 男性→2 (五十音順)	30	2	1		2			誇り	2	2	3	2	3	1	1		
問9④国籍	31	2	3		何回も(小学校の時から)	2		どうでもいいこと	3	4	4	2	3	1	2		
問9④国籍 記載のまま記入	32	2	1		2			特別な感じ	4	4	4	2	3	1	2		
問9④その2 出身国(留学生のみ)	33	2	2		2			まあまあ	3	3	3	2	3	1	1		
問9⑤その2 記載のまま記入	34	2	3	たくさん	2			おもしろい	3	4	3	2	3	1	1		
注1: アンケートの通し番号について	35	2	2		2				3	2	1	2	3	1	1		
各教員へ担当学科のアンケートが配布されている。入力前にそのアンケートへ通し番号を振っておく(アンケートの右上隅に手書き)	36	2	1		2				3	4	1	1	3	1	1		
注2. 仮1~仮4は実際には回答されたアンケート用紙でない。このうちの担当学科学生のアンケート(1枚)については、通し番号を最後として入力(コピー)するようお願いいたします。	37	2	1		2			すごい	2	2		5歌うことは嫌いじゃないから歌っている	2	3	1	1	
	38	2	1		1	1		何も思わない	4	2	4	2	3	1	1		
	39	2	1		2				4	4	4	3	3	1	1		
	40	2	1		2				3	4	3	2	3	1	1		
	41	2	1		2			誇り	1	3	3	2	3	1	2		
	42	2	1		2				3	3	3	2	3	1	1		
	43	2	1		2			怖い	4	4	3	3	3	1	1		
	44	2	1		2			良いこと	3	4	3	2	3	1	1		
	45	2	2		2			きょうでめずらしいこと	1	1	2	1	3	2	1		
	46	2	2		2			自分とは違う別の考え方	2	3	1	2	3	1	1		
	47	2	1		2			思想がはっきりしていい	4	3	4	3	3	1	1		
	48	2	1		2			どうも思わない	3	4	4	2	3	1	2		
	49	2	1		6	~高等学校		誇り	3	4	1	2	3	1	2		
	50	2	1		2			思想がはっきりして	4	4	4	3	3	1	1		
	51	2	1		2			普通	2	2	1	2	3	2	2		
	52	2	1		2			すごい	2	3	3	2	3	2	2		
	53	2	1		2			誇りである	3	2	4	2	3	4	2		
	54	2	1		1	1			2	4	2	2	3	4	1		



(2)の3 コミュニティ福祉学科 (2018年1月17日(水)実施)

担当 中原 陽三

問1. あなたはキリスト教信者ですか	№	問1	問2	問2の2	問3	問3の2	問3の2のその他	問4	問5	問6	問7	問8	問9① ① 学科	問9② ② 学年	問9③ ③ 性別	問9④ ④ 国籍	問9④その2	問10① ① 学科	問10② ② 学年	問10③ ③ 性別	問10④ ④ 国籍	問10④その2	
問1	はい→1 いいえ→2	1	2	2		2		別の世界の出来事	2	2	2	1	1						1	2			
問2. あなたは教会に行っただけですか？		2	2	3			覚えてない	すてき	2	2	1	2	1						3	1	1		
問2	①一度も行っただけ→1	3	2	2		1	1	特に何とも思っていない	4	4	4	3	1						3	1	1		
	②一度だけ行った→2 ③複数回行った→3	4	2	1		2				2	4	2	2	1					3	1	1		
問2の2	複数回行った事がある場合の回数	5	2			2		ほこり	1	2	2	2	1						3	1	1		
問2の2	記載があった回数をそのまま数字で記入	6	2	3		3	1	誇り	1	2	1	1	1						3	1	1		
問3. あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか？		7	2	1		2			1	1	1	1	1						3	1	1		
問3	はい→1 いいえ→2	8	2	1		2		誇り	1	2	3	1	3						3	1	1		
問3の2	はいの場合、どの時か(複数回答可(2と5など))	9	2	1		2		ほこり	2	4	2	2	3						3	1	1		
問3の2	幼稚園→1 保育園→2 小学校→3	10	2			2	2		2	4	1	2	3						3	1	1		
問3の2	中学校→4 高校→5 その他の回答→6	11	2	1		1	5	いいこと	2	3	1	2	2						3	1	1		
問3の2その他	その他の回答を、そのまま記入	12	2	1		2			2	3	4	2	3						3	1	1		
問4. 本学がキリスト教大学であることに対するイメージ		13	2	1		2		特に何とも思っていない	4	4	1	3	2						3	1	1		
問4	記入された文字列をそのまま記入	14	2	1		2			4	4	4	3	3						3	1	1		
問5. 礼拝について今、どんな風に感じていますか？		15	2	1		2		素晴らしいこと	2	1	1	1	1		暇	すばらしいこと	いのること		3	1	1		
問5	①～④に応じて1～4を記入いっばい	16	2	3		2		すてき	1	2	1	2	2						3	1	1		
問6. 礼拝時に自分で祈ったことの有無		17	2	1		1	5		4	4	3	2	3		普通	普通			3	1	2		
問6	①～④に応じて1～4を記入	18	2	1		2		ほこり	2	2	2	2	1		普通	宗教			3	1	2		
問7. 礼拝での賛美歌に対する感じ		19	2	1		2		ほこり	2	2	1	2	2						3	1	2		
問7	①～④に応じて1～4を記入	20	2	1		2			2	4	2	2	3						3	1	2		
問8. 礼拝での話について		21	2	2		2		良いこと	2	2	2	2	2						3	1	2		
問8	①～③に応じて1～3を記入	22	2	2		2		誇り愛	2	3	1	2	2						3	1	2		
問9-1. 礼拝に対する印象の変化の有無(入学当初と比較)		23	2	3		2	2	すてき	2	3	1	2	1		めんどくさいもの	意外と悪くないもの	落ちついた時間を過ごせるから		3	1	2		
問9-1	①～③に応じて1～3を記入	24	2	2		2			4	4	3	3	3						3	2	1		
問9-2	変化有りの場合、何がどのように変わったか、またその理由	25	2	1		2			3	3	2	2	2						3	2	2		
問9-2①前半	記入された文字列をそのまま記入	26	2	1		2		大切に思ってる	3	4	4	3	3						3	2	2		
問9-2①後半	記入された文字列をそのまま記入	27	2	1		2		別に	4	4	3	3	3						3	2	2		
問9-2②	記入された文字列をそのまま記入	28																					
問10①学科		29																					
問10①学科	現代コミュニケーション学科→1 食物学科→2	30																					
	コミュニティ福祉学科→3 人間社会学科→4	31																					
	(短大、四大毎に、五十音順)	32																					
問10②学年		33																					
問10②学年	1年→1 2年→2 3年→3 4年→4	34																					
問10③性別		35																					
問10③性別	女性→1 男性→2 (五十音順)	36																					
問10④国籍		37																					
問10④国籍	記載のまま記入	38																					
問10④その2	出身国(留学生のみ)	39																					
問10④その2	記載のまま記入	40																					
注1:	アンケートの通し番号について各教員へ担当学科のアンケートが配布されている。入力前にそのアンケートへ通し番号を振っておく(アンケートの右上隅に手書き)	41																					
注2:	版1～版4は実際に回答されたアンケート用紙だが、各教員へ配布されたアンケートには入っていない。このうちの担当学科学生のアンケート(1枚)については、通し番号を最後として入力(コピー)するようお願いいたします。	42																					
2018年2月3日の注、以前のファイルからの変更点は次の2点:																							
(1)「問9」を全て「問10」へ																							
(2)「問9-1」と「問9-2」に関する行と列を追加																							
2018年2月3日の注2、アンケート自体の変更点は																							
(1)問9が問10となり、学科、学年、性別の回答方法が、記入から選択(自ら記入するのではなく、記載されているものから選択)になったこと																							
(2)問9-1と問9-2が新規追加されたこと																							

(3) 現代コミュニケーション学科 担当 山田美代子

2017年度 礼拝についてのアンケート結果報告

2017年度礼拝において、短期大学現代コミュニケーション学科学生を対象に行ったアンケート調査結果は、次の通りである。

実施日及び回答者数

前期：2017年7月19日（水）礼拝終了後 66名

後期：2018年1月17日（水）礼拝終了後 50名

属性：前期 男性8名（内、8名） 女性52名（内、4名） 不明6名（内、3名）

後期 男性4名（内、1名） 女性46名（内、5名） 不明0名（留学生数）

【質問1】あなたはキリスト教徒ですか？

	前期 ／ 66名中	後期 ／ 50名中
① はい	4名（6.1%）	1名（2%）
② いいえ	60名（90.9%）	48名（96%）
③ 無回答	2名（3%）	1名（2%）

【質問2】あなたは教会へ行ったことがありますか？

	前期 ／ 66名中	後期 ／ 50名中
① 一度もいったことがない	49名（74.2%）	34名（68%）
② 一度だけ行った	7名（10.6%）	10名（20%）
③ 複数回行った	10名（15.2%）	5名（10%）
④ 無回答	0名	1名（2%）

【質問3】あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか？

	前期 ／ 66名中	後期 ／ 50名中
① はい	6名（9.1%）	2名（4%）
② いいえ	60名（90.9%）	46名（92%）
③ 無回答	0名	2名（4%）

【質問4】 あなたはこの大学がキリスト教主義の大学であることに対してどのようなイメージをお持ちですか？キリスト教大学であることを\_\_\_\_\_だと思ふ。

	前期 / 66名中	後期 / 50名中
好印象な記述内容	13名 (15.2%) 良いこと、いい、誇り、心地よい等	13名 (26%) 良いこと、すばらしい、誇り、心地よい等
否定的な記述内容	2名 (3%) 嫌い	3名 (6%) 変、あまりよくない、違和感がある
無関心な記述内容	6名 (9.1%) 興味がない、何も思わない、普通等	2名 (4%) 特に何も思わない
特色としての記述内容	11名 (21.2%) 神聖、不思議、他人にやさしく大事な心がある、めずらしい等	12名 (24%) すごいこと、愛をもつこと、めずらしい等
無回答	34名 (51.5%)	20名 (40%)

【質問5】 礼拝について今、どんな風に感じていますか？

	前期 / 66名中	後期 / 50名中
① 良い時間である。	4名 (6.1%)	8名 (16%)
② 時々、良いと感じる。	15名 (22.7%)	18名 (36%)
③ なんとも感じない。	23名 (34.8%)	7名 (14%)
④ 義務だから仕方がない。	23名 (34.8%)	17名 (34%)
⑤ 無回答	1名 (1.5%)	0名

【質問6】 礼拝の時、自分で、祈ったことがありますか？

	前期 / 66名中	後期 / 50名中
① よくある。	4名 (6.1%)	4名 (8%)
② 時々、祈る。	7名 (10.6%)	10名 (20%)
③ 祈ったことがある。	21名 (31.8%)	17名 (34%)
④ まったく祈らない。	33名 (50.0%)	18名 (36%)
⑤ 無回答	1名 (1.5%)	1名 (2%)

【質問7】 礼拝の讃美歌はどのように感じていますか？

	前期 / 66名中	後期 / 50名中
① 心地よい。	13名 (19.7%)	11名 (22%)
② 讃美歌をもってきているが歌えない。	29名 (43.9%)	14名 (28%)
③ 讃美歌をもってきていないので歌えない。	9名 (13.6%)	15名 (30%)
④ 歌いたくない。	11名 (16.7%)	10名 (20%)
⑤ 無回答	4名 (6.1%)	0名

【質問8】 礼拝での話はどうですか？

	前期 / 66名中	後期 / 50名中
① 心地よい	7名 (10.6%)	7名 (14%)
② 共感することもある	43名 (65.1%)	33名 (66%)
③ まったく聞かない	14名 (21.2%)	8名 (16%)
④ 無回答	4名 (6.1%)	2名 (4%)
⑤ 無回答	1名 (1.5%)	1名 (2%)

【質問9】 入学時に比べ、礼拝に対する印象は変わりましたか？後期のみ実施

	後期 / 50名中
① 変わった	14名 (28%)
② 変わっていない	8名 (16%)
③ よく分からない	26名 (52%)
④ 無回答	2名 (4%)
⑤ 無回答	1名 (1.5%)

【質問9-2】 質問9で①印象が変わったを選んだ人は、どのように変わったか？

6名記述回答		
以前は、( )だと思っ ていたが、	今は ( ) だと思う。	その理由は
めんどう	リラックスできる	曲 (奏楽、讃美歌)
義務	そうではない	無回答
こわい	そうではない	無回答
つまらない	いろいろ勉強できた	無回答
義務	楽しい時間	生活や人生等共感していい時間
つまらない	楽しい	なおちゃん (宗主任の名)

## まとめ

今年度実施した2回のアンケート調査は、同じ学生を対象とし、前期・後期の礼拝最終日に行った。回答者数は、前期66名に対し、後期50名と減少しているが、その減少の理由及び実際の履修登録者数との関係による回収率についても定かではない。先ず、そのことをお断りした上で報告をする。

前期と後期を比較して、変化が見られたのは【質問5】礼拝についての印象で、「良い時間」や「時々良いと感じる」と肯定的な回答の割合が、前期19名(28.8%)であったのが、後期26名(52%)に増加し、「なんとも感じない」や「義務だから仕方がない」と無関心・否定的に捉えていた割合は、前期46名(69.6%)であったのが、後期24名(48%)に減少した。【質問6】礼拝時の祈りについても質問5と同様の変化が見られた。祈ったことが「よくある」「時々、祈る」「祈ったことがある」は、前期32名(48.5%)であったが、後期31名(62%)で、回答者数の割合を見ると明らかに増加し、反対に「まったく祈らない」は、前期33名(50%)から後期18名(36%)と減少した。

後期のアンケートに新たな【質問9】を加え、入学時と現在の礼拝に対する印象の変化について質問したところ、14名(28%)が「変わった」と答えた。その内6名が具体的な内容の記述をしており、他の8名は空欄であった。記述のあった6名の記述内容は次の通りである。いずれも「入学時」が「現在」に、である。「めんどろ」が「リラックスできる」に、「義務」が「そうではない」に、「こわい」が「そうではない」に、「つまらない」が「いろいろ勉強できた」に、「義務」が「楽しい時間」に、「つまらない」が「楽しい」であった。つまり、前期の調査で義務的に感じていたりつまらない、めんどろ、こわい等の否定的に感じていた人が、そうではなくなり、リラックスしたり楽しい時間へと変化したと回答している。その理由についての記述は、「曲」「生活や人生等を共感していい時間」「なおちゃん」の3名であった。「曲」は、礼拝時にオルガニストの奏でる奏楽や賛美歌のことを示し、「生活や人生等を共感していい時間」は、礼拝での話の影響、「なおちゃん」は宗教主任の名前で、宗教主任の働きによるものと推測する。

以上、現代コミュニケーション学科学生を対象としたアンケート結果を通して、「礼拝」という場に義務的に否定的な思いで出席している学生においても、毎回の礼拝メッセージや祈りを通して自らも祈りを重ね合わせ、礼拝に対する印象も変化していくことの可能性が示唆された。

## 今後の展望

通年で毎週行われている礼拝には、一年生全員と宗教委員(クリスチャン教員)、その他に教職員も一部ではあるが出席している。今後調査を継続していくことは、学科にクリスチャン教員が居ない場合でも出席している学科教員の協力を仰ぎ、結果について各学科内で共有する機会を設けることで、学生のみならず教職員間においても「キリスト教教育の意味」の理解や本学の「建学の精神」の分かち合いの深まりへと発展していくのではないかと考える。

(3) 現代コミュニケーション学科 (2018年7月19日(水)実施)

担当 山田 美代子

問1. あなたはキリスト教信者ですか	No.	問1	問2	問2の2	問3	問3の2	問3の2その他	問4	問5	問6	問7	問8	問9① ①学科	問9② ②学年	問9③ ③性別	問9④ ④国籍	問9⑤ ⑤その他?	
問1   はい→1   いいえ→2	1	2	1		2													
問2. あなたは教会に行ったことがありますか?	2	2	1		2			心地よくなった	2	4	1	3	1	1	1	2	中国	
問2   ①一度も行ったことがない→1	3	2	1		2			すごいこと	4	4	2	2	1	1	1			
問2   ②一度は行った→2   ③複数回行った→3	4	2	1		2				2	3	1	2	1	1	1			
問2の2. 複数回行った事がある場合の回数	5	2	1		2			神	4	4	4	3	1	1	1	1	日本	
問2の2   記載があった回数をそのまま数字で記入	6	2	2		2			いいこと	3	4	2	2	1	1	1			
問3. あなたは大人学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか?	7	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1			
問3   はい→1   いいえ→2	8	2	1		2				4	4	4	3	1	1	1			
問3の2. はいの場合、どの時か(複数回答可(2と5など))	9	2	1		2			良いこと	3	4	2	3	1	1	1			
問3の2   幼稚園→1   保育園→2   小学校→3	10	2	1		2			良い	2	3	2	2	1	1	2		ベトナム	
問3の2   中学校→4   高校→5   その他の回答→6	11	2	1		2			はじめて知った	4	4	1	2	1	1	1		中国	
問3の2その他   その他の回答を、そのまま記入	12	2	1		2			興味がない	4	4	4	3	1	1	1			
問4. 本学がキリスト教大学であることに対するイメージ	13	2	1					嫌い	4	4	4	3	1	1	1			
問4   記入された文字列をそのまま記入	14	1	3	なんかいも	2			わたしもキリスト教なのでいい	2	1		1	1	1	2		スリランカ	
問5. 礼拝について今、どんな風に感じていますか?	15	2	1		2				3	4			1	1	1			
問5   ①~④に応じて1~4を記入	16	2	3	2	2				3	3	2	2	1	1	1			
問6. 礼拝時に自分で折ったことの有無	17	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1			
問6   ①~④に応じて1~4を記入	18	2	3	4	2		仏教	きらい	4	3	4	3	1	1	2		ベトナム	
問7. 礼拝での賛美歌に対する感じ	19	2	1		2				2	3	1	1	1	1	1			
問7   ①~④に応じて1~4を記入	20	2	1		2			他人にやさしく大事な心がある	2	2	1	2	1	1	1		ミャンマー	
問8. 礼拝での話について	21	2	1		2				2	3	3	2	1	1	1			
問8   ①~③に応じて1~3を記入	22	2	1		2			とくにどうも思わない	4	4	3	3	1	1	1			
問9①学科	23	2	1		2			めずらしい大学	3	4	4	2	1	1	1			
問9①学科   現代コミュニケーション学科→1   食物学科→2	24	2	3	10回以上	2			良いこと	3	3	2	2	1	1	1			
問9①学科   コミュニティ福祉学科→3   人間社会学科→4 (短大、四大毎に、五十音順)	25	2	1		2			神聖	4	2	2	2	1	1	1			
問9②学年	26	2	2		2			めずらしいと	4	4	4	3	1	1	1			
問9②学年   1年→1   2年→2   3年→3   4年→4	27	3	3	3	2			いいこと	3	4	2	2	1	1	1			
問9③性別	28	2	1		2				3	4	1	2	1	1	1			
問9③性別   女性→1   男性→2 (五十音順)	29	2	1		2				3	4	1	2	1	1	1			
問9④国籍	30	2	1		2			何も思わない	3	4	2	2	1	1	1			
問9④国籍   記載のまま記入	31	2	1		2			不思議	4	4	2	2	1	1	1			
問9④その2   国籍のみ	32	2	1		2				2	3	2	2	1	1	1			
問9④その2   記載のまま記入	33	2	1		2				3	4	1	2	1	1	1			
注1: アンケートの通し番号について	34	2	1		2			何も思わない	3	2	3	2	1	1	1			
注2: 仮1~仮4は実際に回答されたアンケート用紙だが、各教員へ配布されたアンケートには入っていない。このうちの担当学科学生のアンケート(1枚)については、通し番号を最後として入力(コピー)するようお願いいたします。	35	2	1		2			キリスト教が一番	3	3	3	2	1	1	1			
	36	2	1		2				4	4	2	2	1	1	1			
	37	2	1		2				4	4	3	3	1	1	1			
	38	2	2		2			いい	2	1	2	1	1	1	2		ベトナム	
	39	2	1		2				4	4	4	2	1	1	1			
	40	2	1		2			誇り	4	4	3	3	1	1	1			
	41	2	3		2				4	4	2	2	1	1	2		ネパール	
	42	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1		ベトナム	
	43	2	3	2	2				3	3	2	2	1	1	1			
	44	2	1		2			良いと	4	3	2	2	1	1	1			
	45	1	1		2				2	1	2	1	1	1			ベトナム インドネシア	
	46	2	3	12	2			良い大学	1	1	2	2	1					
	47	1	1		2								1					
	48	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1			
	49	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1			
	50	1	2		2				3	4	2	2	1	1	1			
	51	2	3	14	1		静岡英和学院中学校、高等学校	キリスト教の信者が多い学校	1	3	1	2	1	1	1			
	52	2	1		2				4	4	3	2	1	1	1			
	53	2	1		2			普通	4	4	3	2	1	1	1			
	54	2	2		2				3	3	2	2	1	1	1			
	55	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1			
	56	2	2		2				2	3	3	2	1	1	1			
	57	2	1		2			特になんとも思わない	4	4	4	3	1	1	1			
	58	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1			
	59	2	1		2				2	4	2	2	1	1	1			
	60	2	2		2				3	4	4	3	1	1	1			
	61	2	1		2			よく分かる	1	3	1	1	1	1	1			
	62	2	3	3	1		高校生のとき	いいこと	1	2	1	2	1	2	2		ネパール	
	63	2	1		1		高校	イエス	2	3	1	2	1	2	2		インドネシア	
	64	2	1		1				4	2	4	3	1	2				
	65	2	1		1				2	2	1	1	1	2			ベトナム	
	66	2	1		1				2	2	1	1	1	2			ベトナム	

(3) 現代コミュニケーション学科 (2018年1月17日(水)実施)

担当 山田 美代子

問1. あなたはキリスト教信者ですか	№	問1	問2	問2の2	問3	問3の2	問3の2のその他	問4	問5	問6	問7	問8	問9①学科	問9②学年	問9③性別	問9④国籍	問9④その2	問10①学科	問10②学年	問10③性別	問10④国籍	問10④その2	
問1	1	はい→1	いいえ→2					良いこと	2	2	2	2	2					1	1	1			
問2. あなたは教会に行ったことがありますか?	2	2	1		2				1	3	1	2	1					1	1	1			
問2	3	①一度も行ったことがない→1			2			すごいこと	2	3	2	2	2					1	1	1			
問2の2	4	②一度だけ行った→2	③複数回行った→3						3	4	3	2	3					1	1	1			
問2の2	5	2	2	2					3	4	4	3	3					1	1	1			
問2の2	6	2	1	2					4	4	3	3	3					1	1	1			
問3. あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか?	7	2	1	2				めずらしいこと	4	3	3	2	3					1	1	1			
問3	8	はい→1	いいえ→2					あまり良くない	4	4	3	2	1					1	1	1			
問3の2. はいの場合、どの時か(複数回答可(2と5など))	9	2	3	3	2			覚えることがたくさん	2	2	2	2	1	めんどう	リラックスできる	曲		1	1	1			
問3の2	10	2	3	20以上	2			特に何も思わない	3	3	3	2						1	1	1			
	11	2	2		2			いいこと	2	3	2	2	1	義務	そうではない			1	1	1			
問3の2その他	12	2	1		2			その他の回答を、そのまま記入	2	3	2	2	3					1	1	1			
問4. 本学がキリスト教大学であることに対するイメージ	13	2	1		2			いいこと	1	1	1	2	1	こわい	そうではない			1	1	1			
問4	14	2	3	覚えていない	2			珍しい学校	2	3	2	2	3					1	1	1			
問5. 礼拝について、どんな風に感じていますか?	15	2	1		2			めずらしいこと	4	2	4	2	3					1	1	1			
問5	16	①~④に応じて1~4を記入			2				2	2	2	2	3					1	1	1			
問6. 礼拝時に自分で祈ったことの有無	17	2	1						2	3	3	2	1					1	1	1			
問6	18	①~④に応じて1~4を記入			2			愛をもつこと	3	3	2	3	3	ない	ない	キリストの人じゃない		1	1	1			ネバール
問7. 礼拝での賛美歌に対する感じ	19	2	2						2	2	2	1	1					1	1	1			中国
問7	20	①~④に応じて1~4を記入			2				2	3	2	2	1					1	1	1			中国
問8. 礼拝での話について	21	2	1		2				4	4	4	2	3					1	1	1			
問8	22	①~③に応じて1~3を記入			2				2	4	4	2	1					1	1	1			
問9①学科	23	2	2		2			悪くない、時々心地よくなった	2	3	1	2	3					1	1	2			中国
問9①学科	24	2	1	2					2	3	2	2	3					1	1	1			
	25	2	1	2					4	4	3	3	3					1	1	1			
	26	2	2	2				よいこと	4	4	3	3	3					1	1	1			
	27	2	1	2				ほっこり	4	4	3	2	3					1	1	1			
問9②学年	28	2	1	2				何とも思わない	4	4	3	3	3					1	1	1			
問9②学年	29	2	2	2					1	1	1	1	2					1	1	1			
問9③性別	30	2	1	2					2	4	3	2	1					1	1	1			
問9④国籍	31	2	3	10	1	英和 中高		誇り	1	3	1	3	3					1	1	1			日本人
問9④国籍	32	2	1	2				異文化	2	2	3	2	3					1	1	1			
問9④その2	33	1	1	1	1	高校		良い	2	2	2	2	3					1	1	2			
問9④その2	34	2	1	2				愛	4	4	4	2	3					1	1	1			
注1:	35	2	3	4	2			ほっこり	4	1	4	3	3					1	1	1			
注2:	36	2	1	2				すごいこと	3	4	4	2	3					1	1	1			
注3:	37	2	2	2				礼拝	1	3	1	1	1		つまらない	いろいろ勉強できた		1	1	1			ベトナム
注4:	38	2	2	2				はじめて知っておもしろい	1	2	1	1	1		義務	楽しい時間	①毎回の奨励の話はよくて生活や人生等で共感できてよい時間②讃美歌もよい	1	1	1			中国
	39	2	2	2					4	3	3	2	2					1	1	1			
	40	2	1	2				すばらしい	2	2	3	2	3					1	1	1			
	41	2	1						4	4	3	2	2					1	1	1			
	42	2	1	2				良いこと	3	4	2	2	2					1	1	1			
	43	2	1	2					2	2	2	2	3					1	1	1			
	44	2	1						3	4	3	2	1					1	1	1			
	45	2	1	2				洗脳されそう	4	4	1	2	2					1	1	1			
	46	2	1	2				心があたたかい人が集まるどころ、周りの人に今自分もあたたくやっています	1	3	1	1	3					1	1	1			ミャンマー
	47	2	1	2				まわりの人にやさしくすること、良い	1	3	1	1						1	1	2			
	48	2	1	2					4	4	2	2						1	1	1			
	49	2	1	2				いわからんがある	4	4	3	3	3					1	1	1			日本
	50	2	1	2				いい	4	1	1	1	1		つまらない	楽しい	なおちゃん	1	1	2			

(4)食物学科 担当 崔 瑛

2017年度 礼拝についてのアンケート結果報告

2017年度の礼拝参加学生に対してアンケートを実施し、礼拝に対する意識の変化を把握した。ここでは、短期大学部食物学科の学生による回答結果をまとめる。

・実施日及び回答者数

前期：2017年7月19日（水）礼拝終了後 57名

後期：2018年1月17日（水）礼拝終了後 51名

・回答者属性

回答者は全員1年生であり、留学生はいない。

性別：前期 男性2名 女性53名 不明2名

後期 男性0名 女性51名

【質問1】あなたはキリスト教徒ですか？

	前期 ／ 57名中	後期 ／ 51名中
① はい	2名 (3.51%)	0名 (0.0%)
② いいえ	55名 (96.5%)	51名 (100.0%)
③ 無回答	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)

【質問2】あなたは教会へ行ったことがありますか？

	前期 ／ 57名中	後期 ／ 51名中
① 一度もいったことがない	40名 (70.2%)	37名 (72.5%)
② 一度だけ行った	13名 (22.8%)	10名 (19.6%)
③ 複数回行った	4名 (7.02%)	3名 (5.88%)
④ 無回答	0名	1名 (1.96%)

【質問3】あなたは大学入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか？

	前期 ／ 57名中	後期 ／ 51名中
① はい	6名 (10.5%)	7名 (13.7%)
② いいえ	51名 (89.5%)	43名 (84.3%)
③ 無回答	0名	1名 (1.96%)

**【質問4】** あなたはこの大学がキリスト教主義の大学であることに対してどのようなイメージをお持ちですか？キリスト教大学であることを\_\_\_\_\_だと思ふ。

	前期 / 57名中	後期 / 51名中
好印象な記述内容	13名 (22.8%) ほこりにしている、かっこいい、素敵、いいこと	20名 (39.2%) すてき、すごい、面白い、すばらしい、誇り、いい機会
否定的な記述内容	2名 (3.51%) 変、なれない	2名 (3.92%) 複雑、意味がない
無関心な記述内容	17名 (29.8%) 特に何も思わない、どうでもいいこと、普通、よくわからない	8名 (15.7%) 特に何も思わない、普通、どうでも良いこと
特色としての記述内容	9名 (15.8%) 大学の特徴、大学の長所、神聖、不思議	9名 (15.7%) 不思議、昔から続いていること、未知の世界、静岡ではめずらしい
無回答	16名 (28.1%)	13名 (25.49%)

**【質問5】** 礼拝について今、どんな風に感じていますか？

	前期 / 57名中	後期 / 51名中
① 良い時間である。	10名 (17.5%)	9名 (17.6%)
② 時々、良いと感じる。	18名 (31.6%)	20名 (39.2%)
③ なんとも感じない。	16名 (28.1%)	14名 (27.5%)
④ 義務だから仕方がない。	12名 (21.0%)	8名 (15.7%)
⑤ 無回答	1名 (1.8%)	0名 (0.0%)

**【質問6】** 礼拝の時、自分で、祈ったことがありますか？

	前期 / 57名中	後期 / 51名中
① よくある。	1名 (1.8%)	2名 (3.92%)
② 時々、祈る。	8名 (14.0%)	7名 (13.7%)
③ 祈ったことがある。	19名 (33.3%)	21名 (41.2%)
④ まったく祈らない。	29名 (51.0%)	21名 (41.2%)
⑤ 無回答	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)

## 【質問7】 礼拝の讃美歌はどのように感じていますか？

	前期 / 57名中	後期 / 51名中
① 心地よい。	18名 (31.6%)	23名 (45.1%)
② 讃美歌をもってきているが歌えない。	21名 (36.8%)	9名 (17.6%)
③ 讃美歌をもってきていないので歌えない。	5名 (8.77%)	10名 (19.6%)
④ 歌いたくない。	13名 (22.8%)	8名 (15.7%)
⑤ 無回答	0名 (0.0%)	1名 (1.96%)

## 【質問8】 礼拝での話はどうですか？

	前期 / 57名中	後期 / 51名中
① 心地よい	2名 (3.51%)	2名 (3.92%)
② 共感することもある	45名 (78.9%)	38名 (74.5%)
③ まったく聞かない	9名 (15.8%)	11名 (21.6%)
④ 無回答	1名 (1.75%)	0名 (0.0%)
⑤ 無回答	1名 (1.5%)	1名 (2%)

## 【質問9】 入学時に比べ、礼拝に対する印象は変わりましたか？後期のみ実施

	後期 / 51名中
① 変わった	14名 (27.5%)
② 変わっていない	15名 (29.4%)
③ よく分からない	22名 (43.1%)
④ 無回答	0名 (0.0%)
⑤ 無回答	1名 (1.5%)

## 【質問9-2】 質問9で①印象が変わったを選んだ人は、どのように変わったか？

7名記述回答、その他の44名は無回答		
以前は、( )だと思っ ていたが、	今は ( ) だと思う。	その理由は
怖い感じ	良い時間	毎週参加したから
怖いもの	良い時間	ところが落ち着くから
怖い雰囲気	普通	無回答
義務みたいな	安らげる感じ	無回答
めんどくさい時間	素敵な時間	上記のとおり
自分には関係ない話、分から ないことを聞く時間	自分のことを振り返る時間	聖書の話を書く時間ではなく、 そこからヒントをもらえて自 分の糧とする時間だと気づい たから
何をやるのか分からなかった	礼拝のやる内容が分かった	先生の話を書いて

## まとめ

2017年度の前期・後期において、約6ヶ月の間をあげ、学生の意識の変化を調査した。食物学科に所属する学生の中にキリスト教徒は少なく、前期の回答者では2名いたが、後期にはいなく、教会に行った経験がない学生が7割、一度だけ行った学生は2割程度で、大学以外でキリスト教関連場所や行事に接する機会はほとんどない状態といえる。

本学入学前に、キリスト教主義の学校に通っていた学生は、前期7名(10.5%)、後期6名(13.7%)で、前期後期の調査が同集団に対するものだったため、大きな変化はみられない。

### 1) 本学に対するイメージや礼拝に対する意識の変化

：無関心層の意識と行動に変化がみられる

前期と後期の調査結果を比較してみると、【質問4】本学のキリスト教主義に対するイメージにおいて、肯定的な記述の割合が増えている(前期22.8%→後期39.2%)。また、無関心な意見の記述が減少したことも印象的である(前期29.8%→後期15.7%)。

【質問5】礼拝についての印象においては、「時々良いと感じる」と回答した割合が、前期18名(31.6%)から後期20名(39.2%)に若干増加しており、「なんとも感じない」と「義務だから仕方ない」と答える無関心・否定的な回答は減少している

全体的に、前期の時点で礼拝に対して無関心だった層の考え方が変化していることが伺える。【質問6】礼拝時の祈りについても同様の変化が見られ、後期の回答結果では、「まったく祈らない」の割合の減少(前期51.0%→後期41.2%)がみられた。

### 2) 礼拝に対する意識の変化に対する学生の記述

：礼拝を「怖いもの」、「義務で行う」ものから、「いい時間」、「自分のための時間」に思うようになった

後期のアンケートに新たな【質問9】を加え、入学時と現在の礼拝に対する印象の変化について訊いたところ、14名(27.5%)が「変わった」と答え、自分の意識変化について認めている。具体的にどのような変化があったかを7名が記述している。

3名の記述において「怖さ」が共通項となっており(怖い感じ、怖いもの、怖い雰囲気)、慣れない感覚から「普通」になってきた、あるいは、「良い時間」に感じるようになったと答えている。また、「義務」や「めんどくさい」、「関係のない話」等のネガティブな感情から「安らぎ」や「素敵」、「自分を振り返る時間」のようなポジティブな感情に変化したことは興味深い点であり、信者ではない学生であっても、週一回の礼拝を経験するなかで、肯定的な考え方の変化があり、自分のための安らぎや振り返りを行う時間として活用していることは大きな意味があると評価できる。

以上、食物学科の1年生を対象としたアンケート結果を通して、ほとんどが信者ではない学生において、礼拝を体験することによって「キリスト教主義大学」と「礼拝」に対する肯定的とみられる意識の変化が生じたことが明らかになった。今後は、礼拝の効果に対する学生の評価と変化を個々の学生に対するデプスイタビュー等を通して調べていきたい。

(4) 食物学科 (2018年1月17日(水)実施)

担当 崔 瑛

問1. あなたはキリスト教信者ですか	No.	問1	問2	問2の2	問3	問3の2	問3の2その他	問4	問5	問6	問7	問8	問9① ①学科	問9② ②学年	問9③ ③性別	問9④ ④国籍	問9⑤ ⑤その他
問1   はい→1   いいえ→2	1	2	1		2			心地よくなった	2	4	1	3	1	1	2	中国	
問2. あなたは教会に行ったことがありますか?	2	2	1		2			すごいこと	4	4	2	2	1	1	1		
問2   ①一度も行ったことがない→1 ②一度だけ行った→2   ③複数回行った→3	3	2	1		2				2	3	1	2	1	1	1		
問2の2. 複数回行った事がある場合の回数	4	2	1		2			神	4	4	2	2	1	1	1		
問2の2   記載があった回数をそのまま数字で記入	5	2	1		2			いいこと	4	4	4	3	1	1	1	日本	
問3. あなたは大人入学前に、キリスト教主義の学校に通いましたか?	6	2	2		2			いいこと	3	4	2	2	1	1	1		
問3   はい→1   いいえ→2	7	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1		
問3の2. はいの場合、どの時か(複数回答可(2と5など))	8	2	1		2			良いこと	4	4	4	3	1	1	1		
問3の2   幼稚園→1   保育園→2   小学校→3 中学校→4   高校→5   その他の回答→6	9	2	1		2			良い	3	4	2	3	1	1	1		
問3の2その他 その他の回答を、そのまま記入	10	2	1		2			はじめて知った	2	3	2	2	1	1	2	ベトナム	
問4. 本学がキリスト教大学であることに対するイメージ	11	2	1		2			興味がない	4	4	4	3	1	1	1	中国	
問4   記入された文字列をそのまま記入	12	2	1		2			嫌い	4	4	4	3	1	1	1		
問4   記入された文字列をそのまま記入	13	2	1		2			わたしもキリスト教なのでいい	2	1		1	1	1	2	スリランカ	
問5. 礼拝について今、どんな風に感じていますか?	14	1	3	なんかいも	2				4	4							
問5   ①~④に応じて1~4を記入	15	2	1		2				3	4			1	1	1		
問6. 礼拝時に自分で祈ったことの有無	16	2	3	2	2				3	3	2	2	1	1	1		
問6   ①~④に応じて1~4を記入	17	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1		
問7. 礼拝での賛美歌に対する感じ	18	2	3	4	2	仏教		きらい	4	3	4	3	1	1	2	ベトナム	
問7   ①~④に応じて1~4を記入	19	2	1		2			他人にやさしく大事な心がある	2	3	1	1	1	1	1		
問8. 礼拝での話について	20	2	1		2				2	2	1	2	1	1	1	ミャンマー	
問8   ①~③に応じて1~3を記入	21	2	1		2			とくにどうも思わない	2	3	3	2	1	1	1		
問9①学科	22	2	1		2			めずらしい大学	4	4	3	3	1	1	1		
問9①学科   現代コミュニケーション学科→1   食物学科→2	23	2	1		2				3	4	4	2	1	1	1		
問9①学科   現代コミュニケーション学科→1   食物学科→2	24	2	3	10回以上	2			良いこと	3	3	2	2	1	1	1		
問9②学年   コミュニティ福祉学科→3   人間社会学科→4 (短大、四大毎に、五十音順)	25	2	1		2			神聖	4	2	2	2	1	1	1		
問9②学年   1年→1   2年→2   3年→3   4年→4	26	2	2		2			めずらしいと	4	3	2	2	1	1	1		
問9③性別   女性→1   男性→2 (五十音順)	27	3	3		2			いいこと	4	4	4	3	1	1	1		
問9③性別	28	2	1		2			何も思わない	3	4	2	2	1	1	1		
問9④国籍	29	2	1		2			不思議	3	4	1	2	1	1	1		
問9④国籍   記載のまま記入	30	2	1		2				4	4	2	2	1	1	1		
問9④その他   出身国(留学生のみ)	31	2	1		2				4	4	2	2	1	1	1		
問9④その他   記載のまま記入	32	2	1		2			何も思わない	2	3	2	2	1	1	1		
注1: アンケートの通し番号について 各教員へ担当学科のアンケートが配布されている。入力前にそのアンケートへ通し番号を振っておく(アンケートの右上隅に手書き)	33	2	1		2			キリスト教が一番	3	2	3	2	1	1	1		
注2: 仮1~仮4は実際に回答されたアンケート用紙だが、各教員へ配布されたアンケートには入っていない。このうちの担当学科学生のアンケート(1枚)については、通し番号を最後として入力(コピー)するようお願いいたします。	34	2	1		2				3	3	3	2	1	1	1		
	35	2	1		2			いい	4	4	2	2	1	1	1		
	36	2	1		2				4	4	3	3	1	1	1		
	37	2	1		2			誇り	4	4	4	2	1	1	1		
	38	2	2		2				4	4	4	2	1	1	1		
	39	2	1		2				2	1	2	1	1	1	2	ベトナム	
	40	2	1		2				4	4	4	2	1	1	1		
	41	2	3		2				4	4	2	2	1	1	2	ネパール	
	42	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1	ベトナム	
	43	2	3		2				3	3	2	2	1	1	1		
	44	2	1		2			良いと	4	3	2	2	1	1	1		
	45	1	1		2				2	1	2	1	1	1		ベトナム インドネシア	
	46	2	3	12	2			良い大学	1	1	2	2	1				
	47	1	1		2								1				
	48	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1		
	49	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1		
	50	1	2		2				3	4	2	2	1	1	1		
	51	2	3	14	1	静岡英和学院中学校、高等学校		キリスト教の信者が多い学校	1	3	1	2	1	1	1		
	52	2	1		2				4	4	3	2	1	1	1		
	53	2	1		2			普通	4	4	3	2	1	1	1		
	54	2	2		2				3	3	2	2	1	1	1		
	55	2	1		2				3	3	2	2	1	1	1		
	56	2	2		2				2	3	3	2	1	1	1		
	57	2	1		2			特になんとも思わない	4	4	4	3	1	1	1		
	58	2	1		2				3	4	2	2	1	1	1		
	59	2	1		2				2	4	2	2	1	1	1		
	60	2	2		2				3	4	4	3	1	1	1		
	61	2	1		2			よく分かる	1	3	1	1	1	1	1		
	62	2	3	3	1	高校生のとき		いいこと	1	2	1	2	1	2	2	ネパール	
	63	2	1		1	高校		イエス	2	3	1	2	1	2	2	インドネシア	
	64	2	1		1				4	2	4	3	1	2			
	65	2	1		1				2	2	1	1	1	2	1	ベトナム	
	66	2	1		1				2	2	1	1	1	2	1	ベトナム	

## 「静岡英和学院大学におけるキリスト教と One for all, All for one」座談会

—先輩から後輩へ、後輩から先輩へ—

2018. 1. 24 12時～12時40分 大学食堂にて

出席者

4年生 大石 竜希、大内 海愛、大竹 良一、坂本 昇平、  
寺西 穂華、深澤 凜、山田亜矢子  
3年生 山崎 千壽 2年生 鈴木 凌  
1年生 SAMA SHRESTHA SURAJ、POKHREL DINESH

聞き手 伊勢田奈緒

2018年1月24日（お昼休み）に同年3月で静岡英和学院大学を卒業する4年生7名と在校生4名に集ってもらい、「静岡英和学院大学におけるキリスト教と One for all, All for one」をテーマに座談会を開きました。

2014年に入学してきた4年生はこれまでの少々消極的で仲間づくりが不得手な傾向にある静岡英和大学の学生とは少しタイプの異なる学生達であったように感じます。まさに One for all, All for one の精神をもった学生であったと思います。彼らは英和愛が強く、また仲間を大事にしつつ、在校生を楽しませることに心血をそそぐような学生達でした。そこで、彼らに集ってもらい、在校生と自由に、率直に話し合う機会をもちました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

この座談会の大きなテーマは「キリスト教と One for all, All for one」ですが、いろいろ語ってもらいたいと思います。

A 「キリスト教ってどんな風に受け止めたか？」

- \* 静岡英和学院大学の「ルール」って感じ？
- \* ルール？
- \* 道筋かなあ？
- \* キリスト教は初めは抵抗感があったけど、なんだか普通になっていった。

\* 先輩、僕はヒンズー教だけどキリスト者もたくさん周りにいるよ。礼拝にも行ったことがあるよ。

僕は抵抗がないよ。でも、伊勢田先生は「愛と赦し」って言うけれど、それを実行するのは人間には難しいよ。キリスト教はやり過ぎて感じ。

\* 僕もヒンズー教だけど、キリスト教の愛は難しいと思うよ。「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい。」はいいけど。

\* 日本にはたくさんの神様がいるからね。…ヒンズー教を信じているからこそ、別の宗教のこと（キリスト教）を知って、比較もできるし、…自分の信じている宗教を確かめられるのでは？

\* 神様って始まり…というか、ゼロっていうか…。すがるものっていうか…。そう思わない？

⇒ ここで話は変わる。

B 先ほどの「ルール」についても少し、説明してください。

- \* 坂本君の代わりに私（大内）が説明します。ルールって…静岡英和学院大学が一つの駅だとして…自分のルールは後ろにも前にもあって…入学してきた学生は駅で降り

て、そこで4年間を過ごして、その後、英和大学駅からまた、次の駅へ向かうって感じかなあ…。

⇒ みんな、なんとなく納得した様子。

C 「四年間で、成長したことって、どんなことでしょうか？」

- \* 仲間が出来て、その輪が広がったことかなあ。
- \* 高校の時はひとりで面白そうなことをみんなの前でやっていたけれど、大学に来たら、同じような考えをもっている仲間に出会い、みんなを楽しませることを一緒に出来るようになり、楽しかった。仲間に会えて僕は成長したと思う。
- \* 周りの人間によって自分が変わり、また、自分によって人も変わっていく…お互いの心が影響し合いながら高められていったみたい。
- \* 先輩たち、僕は、勉強は自分ですることだと考えていますが、それとは別にみんなと楽しく学園生活をしたいと思っています。
- \* えええ?!僕は自分で勉強するのではなく人に聞いて覚える方が頭に良く入るよ…。

⇒ 話題が別の方に行きそうなので、次の話へ。

D 「先輩たちが後輩に受け継いでもらいたいもの・・・というか、英和像みたいなものはありますか？」

- \* やり残したものかなあ？
- \* それは具体的にどんなことですか？
- \* たとえば、オープンキャンパスのスタッフとか、リトリートの時の引率者とか。
- \* そうですね。オープンキャンパスとか、リトリートとかで自分が前に出る立場になると、自分の大学のことを知ろうとするし、自分の大学のことを懸命に知らせようとするし。

るし。

- \* 後輩のみんなには、人に期待するのではなく、自分たちが楽しいことを企画していくようにする…そういう心意気をもってもらいたい。

⇒ ここで、3時限目の授業の始まる時間となり、この会はお開きとなり、集まった学生達は三々五々それぞれの授業に向かっていきました。

//// 感想 ////

学生達はこの会を開くという私（伊勢田）の一声で集まってくれました。これこそ、One for all, All for oneの心をもった学生たちであると心から思います。学生たちはひとりひとり、静岡英和学院大学駅で途中下車して、2年間、4年間で、たくさんのことを学び、たくさん愛に触れて、そしてみな、同駅から乗車して、それぞれの駅へ向かって進んでいくのでしょうか…これからも。

2017年度 チャペルとキリスト教行事	
3月	卒業礼拝：伊藤悟牧師（青山学院）「さあ、ここからどこへ向かおうか」（14日10時半～） 教職員全体会：伊藤悟牧師（青山学院）「分断と共生～いまなぜキリスト教大学か～」（同日13時～14時半）W303
4月	礼拝（毎週水曜日） 始業礼拝・柴田敏学長「主が愛して下さる」（5日） イースター礼拝：伊勢田奈緒「復活は向こう側から」（12日） スチューデントトリトリート（天城山荘一泊、伊豆シャボテン公園）（大学16～17日／短大15～16日） 伊勢田奈緒「雨にも負けず、風にも負けず」（26日）
5月	柴田敏学長「求める者に良い物をくださる」（10日） 学生礼拝：「リトリートをふりかえって」人間社会（AGUSTIAWAN、喜熊勇太、村越香波、ワイン ティッサトウン、溝口夏奈子）コミ福（石黒博行）食物（望月豪士、長崎美月）（17日） 伊勢田奈緒「粋な主人？」（24日） 伊勢田奈緒「賛美のパワー！」（31日）
6月	石田律代（同窓会会長）「イエス様になって生きる」（7日） 柴田敏学長「いかなる像も造ってはならない」（14日） 伊勢田奈緒「ヘビと鳩の心をもって」（21日） 伊勢田奈緒「星に願いを」（28日）
7月	第13回楓コンサート開催（6月30日、7月3～6日） 「三ヶ月を振り返って」人間社会（日永田広紀、逸見海斗、近藤真依、山本果実、SAMA SHRESTRA SURAJ, 牧野智希）現コミ（馮慧敏）食物（太田優斗、佐野晃子）（5日） 伊勢田奈緒「理解してもらおうこと」（12日） 柴田敏学長「地の塩、世の光」（19日）
8月	
9月	1551企画（音楽の集い《AOIにて》、お茶会《グランディエールにて》開催）（18日） 柴田敏学長「心が燃えるような思いで」（27日）9月卒業式（27日）
10月	中原陽三先生「永遠の命を得させる御心」（4日） 伊勢田奈緒「仲良く秘訣」（11日） リチャード先生「Life is for sharing-Help each make a better life」（18日） 伊勢田奈緒「宗教改革の心」（25日） 第9回クリスマスカードコンテスト（応募期間：1～31日）
11月	柴田敏学長「山が立ち上がって、海に飛び込む」（1日） 学生礼拝：「後期になって思うこと」人間社会（遠藤亜美、杉原千春、逸見海斗、マノン、劉振）コミ福（荻野恵理子、渡邊梨緒、向坂大悟）現コミ（TRAN VAN HIEW）食物（横澤美穂、中野菜月）（8日） 伊勢田奈緒「わろてんか」（16日） 創立記念礼拝：松下直規先生（前静岡英和女学院中学校・高等学校教諭） 奨励「英和創立に思いを寄せて」（23日） 柴田敏学長「限られた時間の中で」（29日） クリスマス・イルミネーション点灯（12月4日～）
12月	第14回楓クリスマスコンサート開催（1、4～7日） 伊勢田奈緒「愛のあるところ」（6日） 学生礼拝「2017年は自分にとってどんな年だった？」人間社会（遠藤亜美、山田匠磨、河合拓海、POKHREL, 牧野智希、青木美早姫）現コミ（前田美滯）食物（太田百華、石川舞華）（13日） クリスマス礼拝・クリスマスメッセージ：伊勢田奈緒「その名は『主は救い』」 クリスマス劇「ME AND MY GIRL - ISEDA 劇団版」（第六代目 ISEDA 劇団【寺西穂華、丸山翔汰、大石竜希、八木妃奈子、大内海愛、深澤凜、坂本昇平、鈴木凌、マノン、ボカレル、サマ】（20日） クリスマス・キャンドル・サービス+クリスマス祝会（20日午後6時～W303にて）
1月	伊勢田奈緒「ひとりひとりの道」（10日） 柴田敏学長「見よ、新しいことをわたしは行う」（17日）

## —卒業礼拝説教者 伊藤悟先生を囲んで—



### 《伊藤悟先生の紹介》

青山学院大学宗教部長・教育人間科学部教授

青山学院大学経済学部卒。ノースウェスタン・カレッジを経て、ウェスタン神学大学院、東京神学大学大学院修了。北星学園女子短期大学宗教主任・助教授、青山学院大学文学部宗教主任・准教授を経て現職。日本キリスト教教育学会常務理事、日本基督教学会幹事、キリスト教学校教育同盟 後継者養成部会委員長、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン理事。

大学開学以来、毎年、大学教育に携わっておられる先生を卒業礼拝講師にお招きし、午前  
に続く午後のひと時、教職員研修会を実施して参りましたが、今年度は、青山学院大学教  
授伊藤悟先生に「分断と共生～いまなぜキリスト教大学か～」と題して、お話していただ  
くことになりました。その後、先生を囲んで自由に討議したいと思います。  
是非、ご出席頂きたく宜しく申し上げます。

日時 2017年3月14日(火) 午後 1:00～2:30

I部	講師による発題	午後	1:00～2:00
II部	自由討議	〃	2:00～2:30

場所 W303教室

担当 伊勢田奈緒 宗教主任

2016年3月2日(水)

## 分断と共生

～いまなぜキリスト教大学なのか～

青山学院大学 伊 藤 悟

1. 人が独りであるのはよくない
  - a) 共に生きる社会、平和構築、インテグレーション
  - b) 宗教改革 500 年
  - c) 人格の完成
  - d) 自立支援と連携協力
  
2. 時代をどう読み取っていくか
  - a) 新階級社会、Socio-Economic Status
  - b) 子どもの遊び相手が変わった
  - c) セグメント化された社会
  - d) 人との関係、モノとの関係
  - e) 社会性を競うサバイバル・ゲーム
  - f) 能力の市場化
  - g) ポピュリズム
  - h) 自立・努力・チャンス
  
3. いま何が起きているのか、何が起ころうとしているのか
  - a) 共生へのある種の疲労感
  - b) 格差社会+分断社会
  - c) パーソナライズするネット社会
  - d) グローバル化と排外主義
  - e) 想像力を失った社会
  - f) 学問はそれをさせない
  
4. 分断か、共生か～いまなぜキリスト教大学なのか～
  - a) キリスト教大学の独自性
  - b) 分断と共生のせめぎあいを綴る聖書
  - c) 価値観形成とアカデミズム
  - d) キリスト教大学のエートス

## 『キリスト教研究年報』執筆要綱

- 1 本誌は、静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部に在籍しているキリスト者教員(過去に在職していた者を含む。)の研究年報誌であり、該当教員の研究論文、研究ノート、その他キリスト教関連記事(チャペルなど)を掲載する。
- 2 編集委員会は、キリスト者教員である委員長及び教員若干名によって構成する。
- 3 委員長は、宗教主任とする。
- 4 原稿の掲載は、編集委員会の審議を経て決定する。
- 5 執筆者による校正は再校までとし、原則として大きな修正は認めない。

### 投稿要項

- 1 論文原稿は、未発表のものに限る。
- 2 原稿について
  - ①原稿は、原則として横書きとし、電子媒体で提出する。
  - ②「研究論文」は、1,600字以内(注・図表等込み)の完全原稿とする。
  - ③「研究ノート」は、12,000字以内(注・図表等込み)とする。論文としての完成度は要求しないが、新たな方法論や視点を提供する内容であること。
  - ④原稿は返却しないので、写しをとっておくこと。
  - ⑤使用ソフトは、マイクロソフトワードとし、文字フォントは、原則として和文では明朝体、欧文では Century 体とする。
  - ⑥原稿の文字の大きさ(ポイント)は、10.5ポイントとする。
  - ⑦原稿の用紙設定は、A4・縦置き・横書きとし、余白は、上 32mm、下 30mm、左右はともに 25mm とする。
  - ⑧原稿の字数設定は、1行半角 80字(全角 40字)、各ページ 40行とする。

### 附則

この要項は平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

## 編集後記

『キリスト教研究年報』第六号を発行することが出来ましたことを嬉しく思います。今号のテーマは「キリスト教と One for all, All for one」としました。このテーマにした理由は静岡英和学院大学が大事にしてきたこと、そしてこれからも大事にしていくスピリットは One for all, All for one の下にある「愛」であると強く思い、またそのように願うからです。

今号では、前号に引き続き「礼拝を通しての学び」というテーマの下、静岡英和学院大学における礼拝について学生たちにアンケートをし、そのアンケート結果をもとに五名のクリスチャン教員によって集計、分析を行いました。このアンケートを引き続き行うと共に大学全体に広く、礼拝の重要性を改めて認識してもらおうと試金石となればと考えます。

崔先生の論文は「南島原市における潜伏キリシタン関連遺産の観光客受入の取組み」と題して、世界遺産登録を目指す長崎のキリスト教関連遺産を対象に、2016年度の研究調査に続くことになりましたが、今回は長崎県の南島原をフィールドにして調査を行い、世界遺産登録以降を見据えた地域側の準備状況についてまとめられたもので、意欲的な論文であると思います。次に、金承子先生は「チャペル（Chapel）の意義を求めて—韓国におけるキリスト教系大学のチャペルの動向—」と題して、韓国のキリスト教大学の礼拝に関する興味深い考察をまとめられました。今回、私（伊勢田）は昨年、宗教改革 500 年という節目の年でしたが、「宗教改革期の女性統治者ブラウنشユヴァイクのエリーザベトの信仰観— One for all, All for one —」と題して、One for all, All for one を実践した宗教改革時代の女性統治者についての信仰の在り方について論じました。

さて、今回は特に「静岡英和学院大学におけるキリスト教と One for all, All for one」座談会を開き、今春卒業する学生と後輩に集まってもらい、自由に討論をしてもらいました。特に四年生が自分たちは「静岡英和学院大学駅」に下車して四年経って、また、別々の駅に向かうのだという言葉にはったり、後輩には自分たちがやり残したことをやっていってもらいたいという発言に感動しました。人生においての四年間は決して長い月日ではないけれども、学生たちはこの英和駅で神様の愛に守られて、それぞれが成長して、又、次の駅へ旅立っていくことを痛感しました。

2017年度は静岡英和学院は今年 130 周年、短大は 51 周年、大学は 15 周年という記念すべき年でした。また特に、人間社会学科の永山ルツ子先生が受洗なさるという本当に嬉しい出来事もありました。

最後に私は 2018 年 3 月をもって静岡英和学院大学を辞することになりました。私の「英和愛」はだれにも負けないと思いつつ、私なりに頑張ってきたと思います。

静岡英和学院大学の上に、またその宗教活動の下に、神様の祝福が豊かにありますようにと心から祈り、筆をおきたいと思います。これまでのたくさんの愛をありがとうございました。

尚、2017 年 3 月 15 日に行われた教職員研修会の際、配布された青山学院の伊藤悟先生のレジュームと 2017 年度の静岡英和学院大学における宗教活動報告を掲載しました。

『キリスト教年報』第六号に協力して頂いた本学教員、また篠原印刷株式会社の秋田氏に心から感謝いたします。

《宗教主任 伊勢田 奈 緒》

**キリスト教研究年報 第六号**  
**Christianity Study Annual**

2018年3月31日印刷

2018年3月31日発行

編集 「キリスト教研究年報」編集委員会  
発行 静岡英和学院大学キリスト教研究会  
静岡市駿河区池田1769番地  
電話(054)261-9201  
印刷所 株式会社 篠原印刷所  
静岡市駿河区登呂6-7-5  
電話(054)286-5141